

Pioneer *sound.vision.soul*

MDLP



MD/CD/チューナー・WMA/MP3対応・
DSPメインユニット

FH-P009MD

取扱説明書

目次 4ページ

carrozeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



注意

このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



禁止

このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



必ず行う

このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

警告

[異常時の処置]

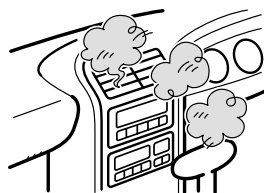
故障のまま使用しない



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



禁止

万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

はじめに

はじめに

- | | | |
|---|-----------------|----|
| 1 | 各部のなまえ | 8 |
| 2 | ご使用になる前に | 10 |
| 3 | DSPモードを切り換える | 12 |
| 4 | 本機のリセットについて | 12 |
| 5 | リモコンの準備 | 13 |
| 6 | フロントパネルの角度を調節する | 14 |
| 7 | セレクションキーの操作について | 15 |

こだけで

こだけで読めばすぐ使えます

- | | | |
|---|---|----|
| 1 | 聞きたいソース (音源) を選ぶ
電源を切る | 18 |
| 2 | 内蔵CDのふだんの操作
CDを再生する
曲を選ぶ
早送り/早戻しをする
音量を調節する
CDを取り出す | 20 |
| 3 | WMA/MP3のふだんの操作
CD-ROMを再生する
フォルダーを選ぶ
曲を選ぶ
早送り/早戻しをする
音量を調節する
CD-ROMを取り出す | 22 |
| 4 | 内蔵MDのふだんの操作
MDを再生する
グループを選ぶ
曲を選ぶ
早送り/早戻しをする
音量を調節する
MDを取り出す | 24 |
| 5 | ラジオのふだんの操作
バンドを選ぶ
放送局を選ぶ
音量を調節する | 26 |
| 6 | マルチCDのふだんの操作
CDを選ぶ
曲を選ぶ
早送り/早戻しをする
音量を調節する | 28 |

内蔵CD

内蔵CDでCDを聞く

- | | | |
|----|----------------|----|
| 1 | モードの切り換えかた | 30 |
| 2 | 同じ曲を繰り返し聞く | 31 |
| 3 | いつもと違う曲順で聞く | 31 |
| 4 | 聞きたい曲をさがす | 31 |
| 5 | 曲名を見て聞きたい曲をさがす | 32 |
| 6 | CD再生を一時停止する | 32 |
| 7 | 選曲方法を切り換える | 33 |
| 8 | 10曲飛びに選曲する | 33 |
| 9 | CDのタイトルを入力する | 34 |
| 10 | タイトル表示を切り換える | 34 |

WMA/MP3

WMA/MP3を聞く

- | | | |
|----|----------------------------|----|
| 1 | モードの切り換えかた | 36 |
| 2 | 同じ曲やフォルダーを繰り返し聞く | 37 |
| 3 | いつもと違う曲順で聞く | 37 |
| 4 | 聞きたい曲やフォルダーをさがす | 38 |
| 5 | フォルダー名を見て
聞きたいフォルダーをさがす | 39 |
| 6 | WMA/MP3再生を一時停止する | 39 |
| 7 | 選曲方法を切り換える | 40 |
| 8 | フォルダー内の曲を
10曲飛びに選曲する | 40 |
| 9 | TAG表示をON/OFFする | 41 |
| 10 | タイトル表示を切り換える | 41 |

内蔵MD

内蔵MDでMDを聞く

- | | | |
|---|--------------------------|----|
| 1 | モードの切り換えかた | 42 |
| 2 | 同じ曲やグループを繰り返し聞く | 42 |
| 3 | いつもと違う曲順で聞く | 43 |
| 4 | 聞きたい曲やグループをさがす | 44 |
| 5 | 曲名を見て聞きたい曲をさがす | 45 |
| 6 | グループ名を見て
聞きたいグループをさがす | 45 |
| 7 | MD再生を一時停止する | 46 |
| 8 | タイトル表示を切り換える | 46 |

ラジオ

ラジオを聞く

1	放送局を1局ずつ記憶させる	48
2	記憶させた放送局を呼び出す	49
3	モードの切り換えかた	49
4	複数の放送局を自動的に記憶させる	50
5	放送局名を見て聞きたい 放送局を呼び出す	50
6	放送局名を選ぶ	51

すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

ここだけ読めば
すぐ使えます

マルチCD

マルチCDでCDを聞く

(別売のマルチCDを組み合わせたときのみ)

1	聞きたいCDを直接選ぶ	52
2	モードの切り換えかた	52
3	同じ曲やCDを繰り返し聞く	53
4	いつもと違う曲順で聞く	54
5	聞きたい曲やCDをさがす	54
6	曲名を見て聞きたい曲をさがす	56
7	タイトルを見て聞きたい CDをさがす	56
8	CD再生を一時停止する	57
9	CDのタイトルを記憶させる	58
10	CDの音質を調整する	60
11	聞きたい曲だけ記憶させておく	61
12	記憶させた曲だけ再生する	62
13	記憶させた曲を1曲ずつ 記憶から消す	62
14	記憶させた曲をCDごとに 記憶から消す	63
15	タイトル表示を切り換える	63

はじめに

内蔵CDでCDを聞く

WMA/MP3を聞く

内蔵MDでMDを聞く

ラジオを聞く

マルチCDでCDを聞く

マルチMDでMDを聞く

テレビを見る

DVDを聞く

音を調節する

便利な機能と初期設定

その他(付録)

目次

マルチ MD

マルチ MD で MD を聞く

(別売のマルチ MD を組み合わせたときのみ)

- 1 マルチ MD のふだんの操作 64
- 2 ファンクションモードの操作 65
- 3 タイトル表示を切り換える 65

テレビ

テレビを見る

(別売のテレビを組み合わせたときのみ)

- 1 テレビのふだんの操作 66
- 2 ファンクションモードの操作 67
- 3 チャンネル一覧から見たいチャンネルを呼び出す 67

DVD

DVD を聞く

(別売の DVD を組み合わせたときのみ)

- 1 DVD のふだんの操作 68
- 2 ファンクションモードの操作 69

音の調節

音を調節する

- 1 DSP について 70
- 2 オーディオ調節のポイント 71
- 3 オーディオ調節モードの切り換えかた 72
- 4 音場の中心で聞く 73
- 5 前後左右の音量バランスを調節する 74
- 6 タイムアライメントを選ぶ 75
- 7 タイムアライメントを調節する 75
- 8 ネットワークを調節する前に 76
- 9 ネットワークを調節する 78
- 10 サブウーファーを使う 79
- 11 低い音を出力しないようにする 80
- 12 オートイコライザーを ON/OFF する 81
- 13 イコライザーカーブを選ぶ 81
- 14 イコライザーカーブを大まかに補正する 82
- 15 イコライザーカーブを細かく調節する 82
- 16 音響効果をかける 83
- 17 小音量時の音にメリハリをつける 84
- 18 イメージに合った演奏会場を再現する 84
- 19 騒音に合わせて音量を変える 85
- 20 各ソースの音量の違いをそろえる 86
- 21 オートタイムアライメント & イコライジングを行う前に 87
- 22 オートタイムアライメント & イコライジングを行う 88

便利な機能

便利な機能と初期設定

1	瞬時に音量を小さくする	90
2	交通情報を受信する	91
3	時計・カレンダーを表示・調節する	92
4	カスタムメニューの切り換えかた	94
5	表示画面を選ぶ	94
6	ディスプレイの明るさを調節する	95
7	夜間のディスプレイの 明るさを切り換える	95
8	ディスプレイ演出の種類を選ぶ	96
9	背景のパターンを選ぶ	96
10	フォントの種類を選ぶ	97
11	エンタテインメントを表示させる	98
12	初期設定モードの切り換えかた	100
13	リバースモードをON/OFFする	101
14	フィーチャーデモをON/OFFする	101
15	外部機器の音声を聞く	102
16	外部機器の名称を入力する	102
17	音の歪みを補正する	103
18	ミュート/アッテネートを 切り換える	103

すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

ここだけ読めば
すぐ使えます

その他

その他 (付録)

1	CDの正しい使いかた	104
2	WMA/MP3 ファイルについて	106
3	MDの正しい使いかた	108
4	保証書とアフターサービス	109
5	故障かな?と思ったら	110
6	こんなメッセージが表示されたら	112
7	用語解説	114
8	おもな仕様	116
9	DSP 調整値記入表	118

はじめに

内蔵CDでCDを聞く

WMA/MP3を聞く

内蔵MDでMDを聞く

ラジオを聞く

マルチCDでCDを聞く

マルチMDでMDを聞く

テレビを見る

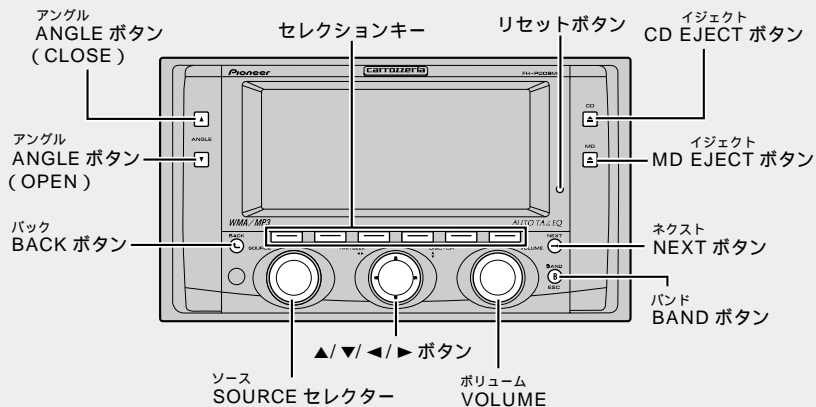
DVDを聞く

音を調節する

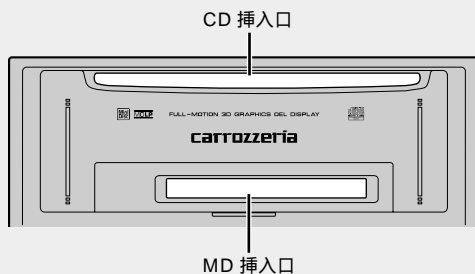
便利な機能と初期設定

その他 (付録)

本体 (クローズ時)



本体 (オープン時)



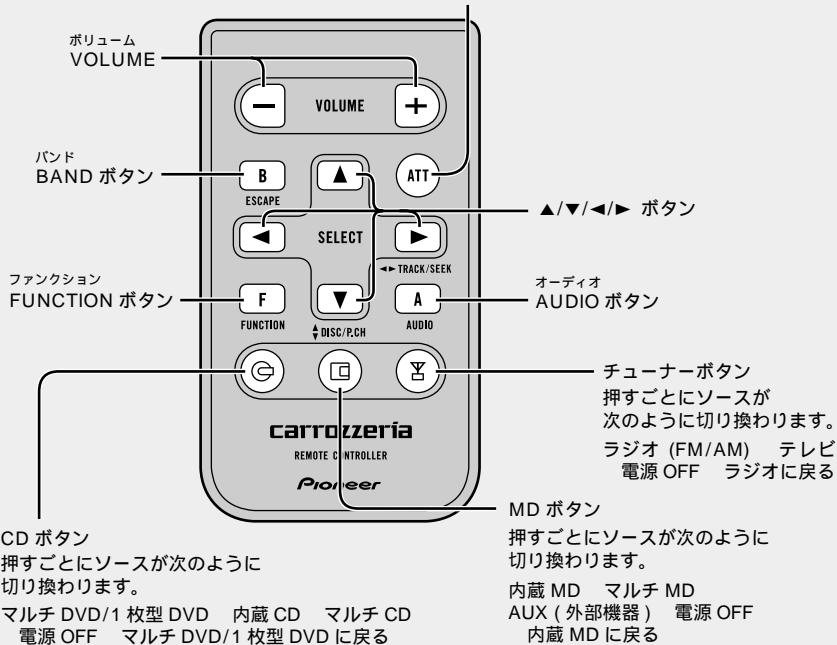
セレクションキーについて

「セレクションキー」は、ディスプレイの表示に合わせて機能が変わるボタンです。「セレクションキー」は、選んでいるモードによって、操作できる機能が異なります。(※ はじめに 15 ページ)

リモコン

各ボタンは、本体の同じなまえのボタンと同じ働きをします。

アッテネーター
ATT ボタン (☞ 便利な機能 ① 90 ページ)
押すごとにアッテネーターが ON/OFF
します。アッテネーターが ON のときは、
音量が約 1/10 になります。



FUNCTION ボタンについて

FUNCTION ボタンを押すと、ファンクションモードを切り換えることができます。

- (☞ 内蔵 CD ① 30 ページ)
- (☞ WMA/MP3 ① 36 ページ)
- (☞ 内蔵 MD ① 42 ページ)
- (☞ ラジオ ② 49 ページ)
- (☞ マルチ CD ② 52 ページ)

AUDIO ボタンについて

AUDIO ボタンを押すと、オーディオ調節モードを切り換えることができます。(☞ 音の調節 ② 72 ページ)

メモ

接続していないソースには切り換わりません。ディスクがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。AUX (外部機器) の設定 (☞ 便利な機能 ① 102 ページ) を ON にしないと、AUX には切り換わりません。

本機の特長

本機は、音楽CD、WMA/MP3の再生に対応しています。

CD再生

音楽用のCD/CD-R/CD-RWを再生することができます。

WMA/MP3再生

WMAおよびMP3ファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。ディスクは、ISO9660のレベル1、レベル2、および拡張フォーマット (Joliet、Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。(※**その他** 106ページ)

WMAについて



外装箱に印刷された、Windows Media™のロゴは、本機がWMAデータの再生に対応していることを示しています。

WMAとは、「Windows Media Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7、7.1またはWindows Media Player for Windows XPを使用してエンコードすることができます。

Microsoft、Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

メモ

WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。

WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。

MP3について

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ<http://www.mp3licensing.com>をご覧ください。

営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送 (地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア)、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、CDのタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記マークのついているCDは、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)



タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけでなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

50枚型マルチCDプレーヤーの使用について

本機では、50枚型マルチCDプレーヤーの取扱説明書に記載されている50枚型マルチCDプレーヤー特有の機能を操作することはできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。

長時間録音されたMDの再生について

本機は、MDLPに対応しています。長時間録音されているMDも再生することができます。

MDLPについて

MDLPとは、今までお使いになっているMDで、従来の録音できる時間より長く(2倍、4倍の時間)録音することができる圧縮方式です。

MDグループディスク再生について

本機は、MDグループ機能の再生に対応しています。MDに収録されている曲をグループとして登録したディスク(グループディスク)を再生している場合、グループ名を表示したり、お好みのグループだけを再生したりすることができます。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源OFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチをON(またはACC)にしないでください。バッテリーが上がる恐れがあります。

デモモードについて

本機には、リバースモードとフィーチャーデモの2つのデモモードがあります。

リバースモードについて

リバースモードは、各ソースを聞いているときに約30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10秒間隔で行われます。

リバースモードを解除したいときは、車のイグニッションスイッチがON(またはACC)のときに本機の電源をOFFにして5のボタンを押してください。もう一度押すと、ONになります。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が電源OFFのときに、各ソースや本機の機能(エンタテインメント、SFCなど)の画面を表示して紹介する機能です。

フィーチャーデモを解除したいときは、フィーチャーデモが表示されているときに6のボタンを押してください。もう一度押すと、デモが始まります。

車のエンジンを止めた状態で、フィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

メモ

赤リード線(アクセサリ電源)は、常に車のバッテリーから電源を供給する電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源をOFFにしても、フィーチャーデモが表示され、バッテリー上がりの原因になります。

はじめに

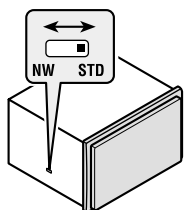
3

DSPモードを切り換える

本機には、3-way ネットワークモード (NW) とスタンダードモード (STD) の2つの動作モードがあります。お好みに合わせて、モードを切り換えることができます。初期設定は、スタンダードモードになっています。

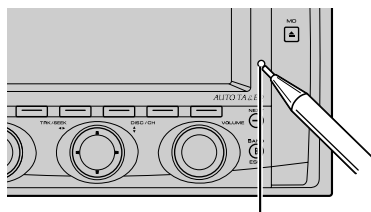
1 DSPモードを切り換える

ペン先などで好みのモードに切り換える



2 本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す



リセットボタン

メモ

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期状態に戻ります。(☞はじめに④)
リセットボタンを押すことで、設定したDSPモードが有効になります。

はじめに

4

本機のリセットについて

リセット

本機を初期設定状態に戻すことができます。

リセットボタンについて

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期設定状態 (ご購入直後の状態) に戻ります。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

接続が終わった後。

本機が正しく動作しないとき。

ディスプレイが正しく表示されないとき。

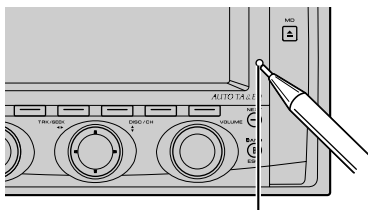
リセットボタンを押すと、本機の記憶 (時計やラジオのプリセットなど) が消去されます。もう一度、セットしなおしてください。

ご注意

本機をリセットする前に、フロントパネルを閉めておいてください。(ディスクを挿入口に差したままにしないでください。)

1 本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す



リセットボタン

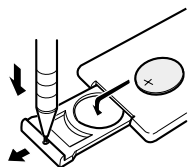
メモ

フロントパネルを開けたままリセットすると、自動的にフロントパネルが閉じます。

付属のリモコンを使うための準備です。

リモコンに電池を入れる

リモコンを裏返し、電池ホルダーを取り出して、リチウム電池 (CR2025) を ⊕ 側を上にしてセットします。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

リモコンの取り扱い上のご注意

リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。本体に直射日光が当たっていると、リモコンの操作ができないときがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。

付属の電池は充電できません。

リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。

電池の液もれが起こったときは、内部についた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。

不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示 (条例) に従って処理してください。

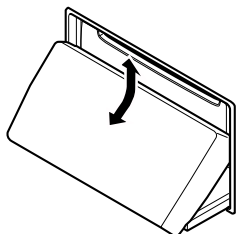
フロントパネルの角度を調節して、ディスプレイを見やすくしたり、操作をしやすくすることができます。

1 フロントパネルの角度を調節する

ANGLE (OPEN/CLOSE) ボタンを押す

OPEN : ボタンを押すごとにフロントパネルが傾きます。2秒以上押すと、全開します。

CLOSE : ボタンを押すごとにフロントパネルが立ち上がります。2秒以上押すと、完全に閉まります。



ご注意

角度の調節は、手動で行わないでください。フロントパネルに強い力が加わると、故障することがあります。

ディスクを挿入口に差ししたままにしないでください。フロントパネルを開められなくなります。

メモ

フロントパネルの角度は、12段階に調節することができます。

車のACC (アクセサリ) 電源をOFFにすると、約6秒後にフロントパネルが閉まります。もう一度ONにすると、元の位置に戻ります。(ただし、安全のために、全開位置には戻りません。)



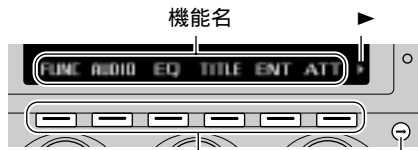
注意

フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。フロントパネルを全開にしたまま、走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして、思わぬケガをする恐れがあります。

この説明書では、ファンクションモードやオーディオ調節モードの操作は、セレクトキーを基本として説明しています。

セレクトキーについて

「セレクトキー」は、ディスプレイの表示に合わせて機能が変化するボタンです。「セレクトキー」は、選んでいるモードによって、操作できる機能が異なります。また、「▶」表示は、セレクトキーに現在表示されている機能とは別の機能があることをあらわしています。「▶」が表示されているときにNEXTボタンを押すと、セレクトキーの機能を切り換えることができます。



セレクトキー NEXTボタン

この説明書では、「セレクトキー」での操作は表示される機能名をボタン名として説明しています。(例えば、「FUNC」と表示されている「セレクトキー」は、FUNCボタンと言います。)

基本画面について

CDを聞いているときなどの基本画面には、FORM 1、FORM 2、FORM 3の3つの表示方法があります。(▶ 便利な機能⑤ 94ページ)

FORM 1



FORM 2



FORM 3



この説明書では、FORM 1を例に説明していますので、FORM 2、FORM 3を選んでいる場合、「セレクトキー」の表示が一部異なることがあります。

BAND ボタンとBACK ボタンの違いについて

BAND ボタンは、選んでいるモードに関係なく一度で基本画面に戻ることができます。(ラジオやテレビでは、モードを選んでいるときにBAND ボタンを押すと、バンド切り換えになります。)

BACK ボタンは、選んでいるモードを解除し、一つ前のモード(画面)に戻ることができます。

階層表示について

各モードの操作で、セレクションキーを押すことで、より詳細な機能選択になるモードについては、そのステップを数字とバーで表示しています。

(例：内蔵MDで、FUNC ボタン、T.LIST ボタンの順に押したとき)






階層表示

ガイド表示について

この説明書では、各モードの操作についてセレクションキーを基本として説明していますが、機能のON/OFFなど▲/▼/◀/▶ ボタンでも操作できるものがあります。▲/▼/◀/▶ ボタンでも操作することができるときは、ガイド表示が出ます。



表示の例	内容
	▲/▼/◀/▶ ボタンで操作 できます。
	▲または▼ボタンで機能の ON/OFF ができます。
	◀または▶ ボタンで項目を選 ぶことができます。

セレクションキーの操作 (例 : 内蔵CDのランダムプレイ)

1 “FUNC” を表示させる

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

FUNC RNDM EQ TITLE ENT ATT ▶

TI PAUSE CLK MENU ▶

FUNC RNDM EQ TITLE ENT ATT ▶ に戻る

2 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

ファンクションモードに切り換わり、セレクションキーの表示も次のように切り換わります。

RPT RDM SCAN TLIST PAUSE ▶

3 ランダムプレイ設定モードにする

RDM ボタンを押す

ランダムプレイ設定モードに切り換わります。



4 ランダムプレイをONにする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



ランダム再生がONになると、ランプが点灯します。

5 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

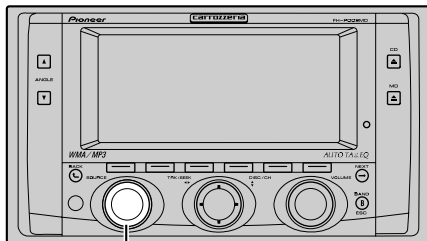
ファンクションモードが解除されます。

メモ

セレクションキーは、選んだソースやモードによって、切り換わる機能や表示の数が異なります。セレクションキーの表示が出ていないボタンには機能がありません。この場合、そのボタンでは操作することはできません。

ランダムプレイ設定モード中では、▲/▼ボタンでもランダムプレイをON/OFFすることができます。

聞きたいソース (音源) に切り換えることができます。



ソース
SOURCE セレクター

1 ソースを切り換える

SOURCE セレクターを押す

押すと手前に出てきます。

もう一度押すと、元に戻ります。

SOURCE セレクターを回す

SOURCE セレクターを回すごとに次のように切り換わります。

ラジオ (FM/AM)

テレビ (別売)

マルチ DVD / 1 枚型 DVD (別売)

内蔵 CD

マルチ CD (別売)

内蔵 MD

マルチ MD (別売)

External
(エクスターナルユニット 1) (別売)

External
(エクスターナルユニット 2) (別売)

AUX (外部機器) (別売)

電源 OFF

ラジオに戻る

2 電源を切る

SOURCE セレクターを回す

本機の電源が切れるまで、SOURCE セレクターを回します。

メモ

接続していないソースには切り換わりません。ディスクがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。

AUX (外部機器) の設定 (E5 便利な機能 102 ページ) を ON にしないと、AUX には切り換わりません。

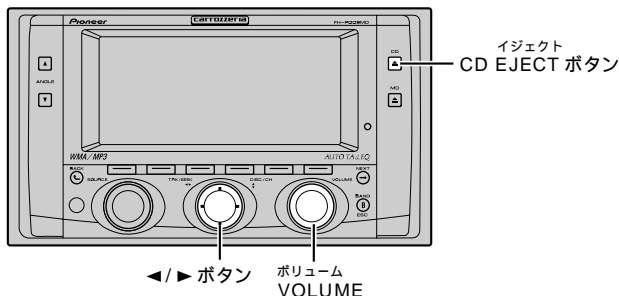
本機の青リード線 (オートアンテナ) に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。

External (エクスターナルユニット) とは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品 (将来発売される製品など) の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。本機では、2台の External (エクスターナルユニット) をコントロールすることができますが、External1、External2 のどちらに切り換えても “External” が表示されます。2台の External (エクスターナルユニット) を接続した場合、本機によって、External1、External2 が自動的に設定されます。

ここだけで **2** 内蔵 CD のふだんの操作

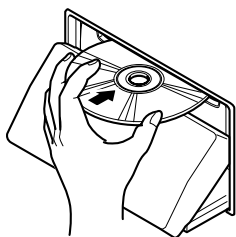
CD を再生する 曲を選ぶ

ここだけの操作で、CD を聞くことができます。



1 CD を再生する

CD EJECT ボタンを押して、フロントパネルを開き、CD を CD 挿入口に差し込む



タイトル面を上にして差し込みます。

ご注意

CD シングル (8 cm CD) もアダプターなしでセットできます。アダプターは絶対に使用しないでください。

自動的にフロントパネルが閉まり、CD の再生が始まります。

2 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)
- ◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5 秒未満
曲の早送り/早戻し ¹	0.5 秒以上押し 続けている間

¹ 選曲方法をラフサーチに設定した場合は、10 曲飛びに選曲します。

(内蔵 CD ⑦ 33 ページ)

! 注意



注意

フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。



再生経過時間 曲番号

3 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。

もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUME を回す

右回し：大きくするとき

左回し：小さくするとき

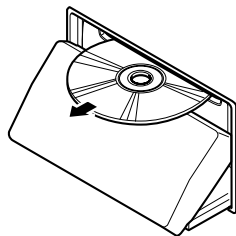
音量は、0～40の範囲で調節できます。

約4秒間、音量が表示されます。

4 CDを取り出して CD再生をやめる

CD EJECT ボタンを押す

自動的にフロントパネルが開きCDが出てきます。



出てきたCDはすぐに取り出して、保管してください。

CD EJECT ボタンを押して、フロントパネルを閉める

フロントパネルが閉まります。

CD挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐためフロントパネルを開けてください。

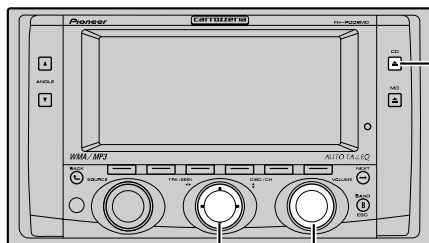
メモ

CDをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース（ラジオやMDなど）に切り換えることもできます。（**ここだけで** 18ページ）

CD挿入口には、CD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。

「CD TEXT」など文字情報を記録しているディスクの場合、ディスクをセットしたり、トラックが切り換わったりすると、ディスクタイトルや曲名を自動的にスクロール表示します。

ここだけの操作で、WMAやMP3を聞くことができます。再生できるWMAやMP3については (E3P その他 106 ページ)

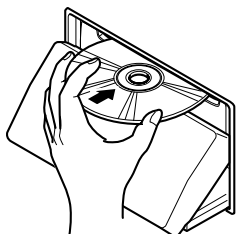


イジェクト
CD EJECT ボタン

▲/▼/◀/▶ ボタン
ボリューム
VOLUME

1 CD-ROM を再生する

CD EJECT ボタンを押して、フロントパネルを開き、CD-ROMをCD挿入口に差し込む



タイトル面を上にして差し込みます。

自動的にフロントパネルが閉まり、CD-ROMの再生が始まります。

2 聞きたいフォルダーを選ぶ

▲または▼ ボタンを押す

▲ : 次のフォルダーを選ぶとき

▼ : 前のフォルダーを選ぶとき

BAND ボタンを2秒以上押すと、フォルダー01 (ROOT)に戻ります。ただし、フォルダー01 (ROOT) にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。

3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)

◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し ¹	0.5秒以上押し 続けている間

WMA/MP3 ファイルを早送り/早戻ししているときは、音声は出力されません。

¹ 選曲方法をラフサーチに設定した場合は、10曲飛びに選曲します。

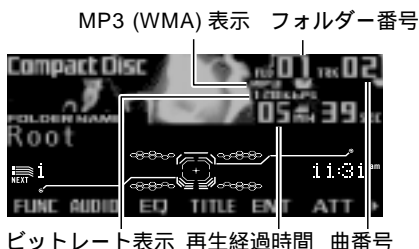
(E3P WMA/MP3 40 ページ)

⚠ 注意



注意

フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。



4 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。

もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUME を回す

右回し：大きくするとき

左回し：小さくするとき

音量は、0～40の範囲で調節できます。

約4秒間、音量が表示されます。

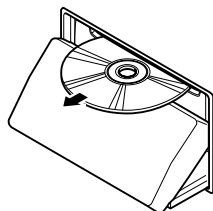
メモ

CD-ROMをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース（ラジオやマルチCDなど）に切り換えることもできます。（ ここだけで① 18ページ）CD挿入口には、CD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。CD-ROMを挿入すると、ファイル形式を読みとる間、“Format read”が表示されます。文字情報が収録されたWMA/MP3ファイルを再生する場合、CD-ROMをセットしたり、トラックが切り換わったりすると、フォルダー名やファイル名を自動的にスクロール表示します。VBR（可変ビットレート）で録音されたファイルを早送り/早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。

5 CD-ROMを取り出してCD-ROM再生をやめる

CD EJECT ボタンを押す

自動的にフロントパネルが開きCD-ROMが出てきます。



出てきたCD-ROMはすぐに取り出して、保管してください。

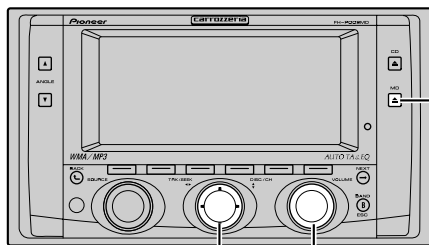
CD EJECT ボタンを押して、フロントパネルを閉める

フロントパネルが閉まります。

WMA/MP3 と音楽データの切り換えについて

WMA/MP3ファイルと、音楽データが混在しているディスクの場合、BANDボタンを押して、WMA/MP3ファイルと、音楽データを切り換えて再生することができます。WMA/MP3ファイルと、音楽データを切り換えた場合、再生は一番先頭の曲から始まります。このとき、音楽データ側に記録された文字情報は表示されません。

ここだけの操作で、MD を聞くことができます。



イジェクト
MD EJECT ボタン

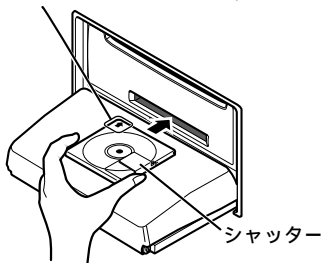
▲/▼/◀/▶ ボタン

ボリューム
VOLUME

1 MD を再生する

MD EJECT ボタンを押して、フロントパネルを開き、MD を MD 挿入口に差し込む

矢印の向きに差し込みます。



MD のラベル面を上にして差し込みます。

確認

MD のシャッターが閉まっていることを確認してから差し込んでください。

自動的にフロントパネルが閉まり、MD の再生が始まります。

2 聞きたいグループを選ぶ (グループディスクの場合)

▲または▼ ボタンを押す

▲ : 次のグループを選ぶとき

▼ : 前のグループを選ぶとき

3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)

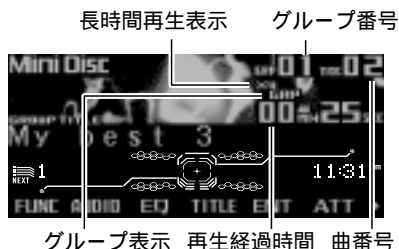
◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5 秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5 秒以上押し 続けている間

メモ

2 倍長時間録音の MD 再生時は、“ × 2 ” が、
4 倍長時間録音の MD 再生時は、“ × 4 ” が表示されます。



4 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。
もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUME を回す

右回し：大きくするとき
左回し：小さくするとき
音量は、0～40の範囲で調節できます。
約4秒間、音量が表示されます。

⚠ 注意



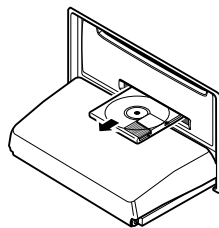
注意

フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。フロントパネルを全開にしたまま、走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして、思わぬケガをする恐れがあります。

5 MDを取り出してMD再生をやめる

MD EJECT ボタンを押す

自動的にフロントパネルが開きMDが出てきます。



出てきたMDはすぐに取り出して、保管してください。

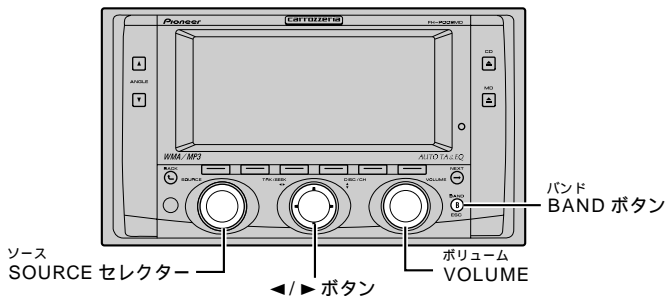
MD EJECT ボタンを押して、フロントパネルを閉める

フロントパネルが閉まります。

メモ

MDをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース(ラジオやCDなど)に切り換えることもできます。(※ ここだけで●18ページ)
MD挿入口には、MD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。
ディスクをセットしたり、トラックが切り換わったりすると、ディスクタイトルや曲名を自動的にスクロール表示します。

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。



1 ソースをラジオにする

SOURCE セレクターを回す

ラジオを受信します。

ステレオ放送を受信すると、ステレオ表示が点灯します。

2 バンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のようにバンドが切り換わります。

FM-1 → FM-2 → AM-1 → AM-2 → FM-1
に戻る

バンドごとに放送局を6局ずつ記憶できます。(※ ラジオ① 48、50ページ)

バンド1とバンド2を切り換えて使うことでより多くの放送局を記憶できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を記憶させておきます。旅行先など、どんな放送局があるのか知らない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと、バンド1に記憶させた放送局はそのまま使いになれます。

ここだけ読めば
すぐ使えます



3 放送局を選局する

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 高い周波数の放送局を選局するとき
- ◀ : 低い周波数の放送局を選局するとき

選局方法の使い分け

手動選局 (1ステップずつ)	0.5秒未満
自動選局	0.5秒以上

0.5秒以上押し続けている間、途中の放送局をとばすことができます。ボタンを離れたところから自動選局を開始します。

電波の強い放送局を選局するには、自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには、手動選局をおすすめします。

4 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。
もう一度押すと、元に戻ります。

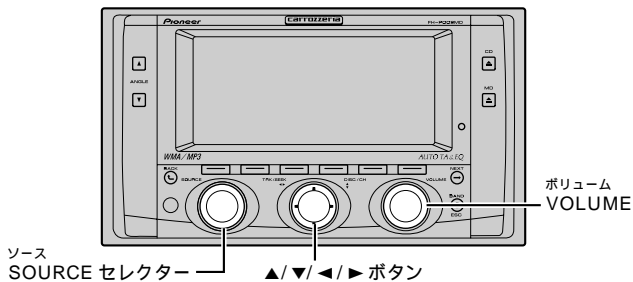
VOLUME を回す

右回し : 大きくするとき
左回し : 小さくするとき
音量は、0 ~ 40の範囲で調節できます。
約4秒間、音量が表示されます。

5 ラジオの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする (☞ ここだけで① 18ページ)

ここだけの操作で、別売のマルチ CD プレーヤーで CD を聞くことができます。



1 ソースを マルチ CD にする

SOURCE セレクターを押す
マルチ CD の再生が始まります。

2 聞きたい CD を選ぶ

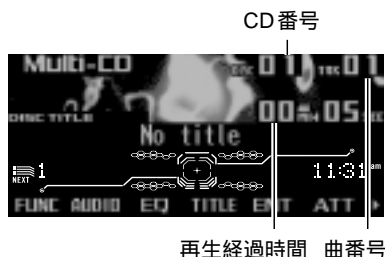
▲または▼ ボタンを押す

- ▲ : 次の CD を選ぶとき
- ▼ : 前の CD を選ぶとき

メモ

マルチ CD が準備動作 (CD の有無の確認や CD の情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをマルチ CD に切り換えると “Ready” が表示されます。

マルチ CD 再生中にマルチ CD からマガジンを取り出すと、“No MAG” が表示されます。



再生経過時間 曲番号

3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)
- ◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し 続けている間

4 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。
もう一度押すと、元に戻ります。

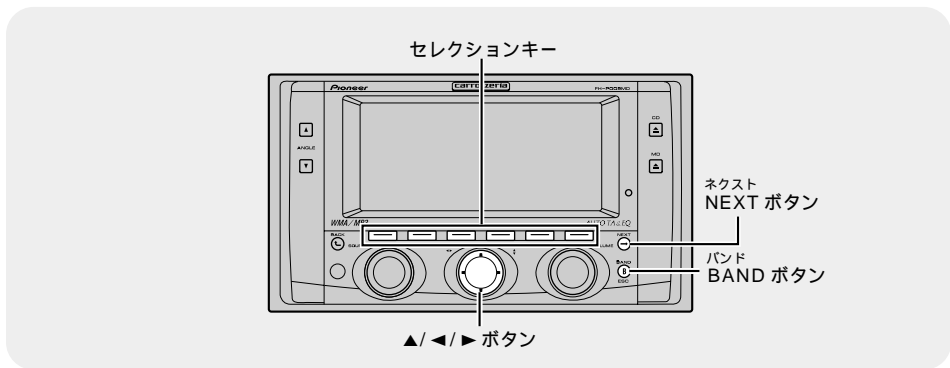
VOLUME を回す

右回し : 大きくするとき
左回し : 小さくするとき

音量は、0 ~ 40の範囲で調節できます。
約4秒間、音量が表示されます。

5 マルチCD再生を やめる

他のソースに切り換えるか、電源
OFFにする (E3P ここだけで① 18ページ)



1 内蔵CD モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT RDM SCAN T.LIST PAUSE ▶

TTLin R.SRCH T.READ ▶

RPT RDM SCAN T.LIST PAUSE ▶ に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST → PAUSE → TTLin → R.SRCH → T.READ → RPTに戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モード(TTLin)を選んでいる場合、自動では解除されません。

トラックリストモード(T.LIST)は、CD TEXT再生中のみ表示され、操作することができます。

内蔵 CD

2

同じ曲を繰り返し 聞く

トラックリピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます。

1 リピートプレイ設定 モードにする

FUNC ボタンを押す

リピートプレイ設定モード以外を選んでいる場合は、RPT ボタンを押す。

2 リピート再生を ON にする

RPT ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



今聞いている曲を繰り返し再生します。

内蔵 CD

3

いつもと違う曲順で 聞く

ランダム再生

選曲を CD プレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1 ランダムプレイ設定 モードにする

FUNC ボタン、RDM ボタンの順に押す

2 ランダム再生を ON にする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



次の曲から、ランダムに選曲します。

内蔵 CD

4

聞きたい曲をさがす

スキャン再生

曲の始めの部分だけを、約 10 秒間ずつ次々に聞くことができます。

1 スキャンプレイ設定 モードにする

FUNC ボタン、SCAN ボタンの順に押す

2 スキャン再生を始める

SCAN ボタンを押す



曲の始めの約 10 秒間が次々に再生されます。

3 聞きたい曲が再生されたら スキャン再生を OFF にする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、手順 1 の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生を OFF にしてください。

スキャンプレイ設定モードのときに
SCAN ボタンを押す

メモ

スキャン再生を始めた曲まで戻るとスキャン再生は解除されます。

内蔵CD

5

曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲を選ぶことができます。

1

トラックリストモードにする

FUNC ボタン、T.LIST ボタンの順に押す



今聞いている曲の番号の下に、“_”が表示されます。

2

聞きたい曲名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに6曲ずつ表示が切り換わります。

3

聞きたい曲を選ぶ

聞きたい曲と同じ番号のボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

「CD TEXT」に、曲名が収録されていないときは、“No T.Title”が表示されます。

◀/▶ ボタンで聞きたい曲を選び、▲ ボタンで選んだ曲を再生することもできます。

内蔵CD

6

CD再生を一時停止する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

1

ポーズ設定モードにする

FUNC ボタン、PAUSE ボタンの順に押す

2

CD再生を一時停止する

PAUSE ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズのON/OFFをすることができます。



内蔵CD

7

選曲方法を切り換える

◀または▶ ボタンを0.5秒以上押し続けたときに、早送り/早戻しにするか、10曲飛びに選曲するラフサーチにするかを選ぶことができます。

1 ラフサーチ設定モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、R.SRCH ボタンの順に押す

2 選曲方法を選ぶ

R.SRCH ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



FF/REV (早送り/早戻し)

→ Rough search (ラフサーチ)

→ FF/REVに戻る

内蔵CD

8

10曲飛びに選曲する

ラフサーチ

10曲以上収録されているディスクの場合、10曲飛びに選曲することができます。

1 ラフサーチ設定モードにしてラフサーチを選ぶ

(☞ 内蔵CD⑦)

2 聞きたい曲を選ぶ

◀または▶ ボタンを0.5秒以上押す

▶ : 10曲先の曲を選ぶとき

◀ : 10曲前の曲を選ぶとき

メモ

10曲以下のディスクでは、ラフサーチを行うと、最初の曲と最後の曲を選曲します。ラフサーチ後に残りの曲が10曲以下になった場合も同様になります。

内蔵CD

9

CDのタイトルを入力する

ディスクタイトル入力

CDにタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルはディスプレイに表示されます。

タイトル入力について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。タイトルを入力しておく、CD再生時に入力したタイトルが表示されます。

タイトルの記憶のしかたは、マルチCDと同じです。(マルチCD ● 58ページ)

タイトルは、10文字まで入力できます。

内蔵CDのタイトルは、48枚分の記憶ができます。

48枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

タイトルを記憶させたCDをマルチCDにセットしたときは、ディスプレイにタイトルを表示させることができます。

マルチCDを組み合わせると、最大100枚分のタイトルを記憶することができます。

タイトル入力機能のないマルチCDを組み合わせると、タイトル入力することができなくなります。

内蔵CD

10

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

「CD TEXT」(はじめに ● 10ページ)再生中に、ディスクタイトルのほかにトラックタイトルやディスクアーティスト名を表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見することもできます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1、FORM 3

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
D.ART	ディスクアーティスト名
T.TTL	トラックタイトル
T.ART	トラックアーティスト名
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
TTL1	ディスクタイトルとトラックタイトル
TTL2	ディスクタイトルとディスクアーティスト名
TTL3	トラックタイトルとトラックアーティスト名
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

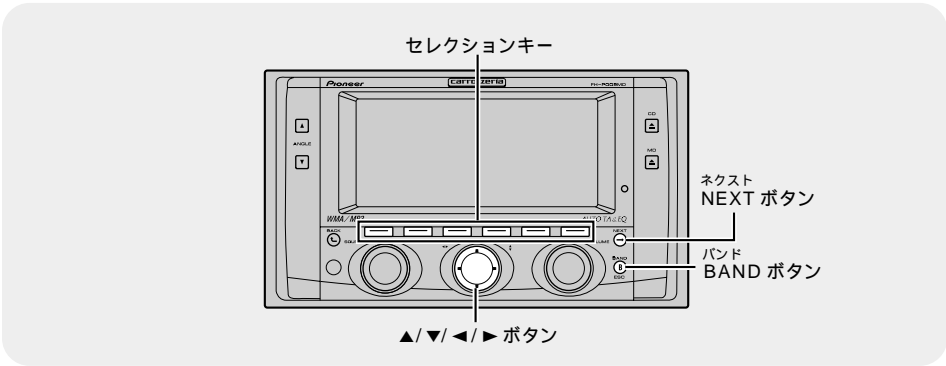
メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、◀/▶ ボタンで曲を選ぶことはできません。

FORM 2を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。トラックアーティスト名などが記憶されていないCDで表示を切り換えると、“No artist name”などが表示されます。

タイトルが入力されていないCDで表示を切り換えると、“No title”が表示されます。



WMA/MP3

1

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT ROM SCAN F.LIST PAUSE ▶

TTLin R.SRCH T.READ ▶

RPT ROM SCAN F.LIST PAUSE ▶

に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → F.LIST → PAUSE → TTLin → R.SRCH → T.READ → RPTに戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モード(TTLin)を選んでいる場合、自動では解除されません。

CD-ROMには、タイトル入力することはできません。CD-ROM再生中にタイトル入力モード(TTLin)を選ぶと、“入力できません”と表示されます。

同じ曲やフォルダーを繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞いたり、1つのフォルダーを繰り返し聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

表示	リピート再生の内容
Track repeat	再生中の曲を繰り返し再生します。
Folder repeat	再生中のフォルダーを繰り返し再生します。
Disc repeat	本機にセットされているディスクを通して再生します。（通常は、このモードにしておきます。）

1 再生範囲切換モードにする

FUNC ボタンを押す

再生範囲切換モード以外を選んでいる場合は、RPT ボタンを押す。

2 再生範囲を切り換える

RPT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



- Track repeat (トラックリピート)
- Folder repeat (フォルダーリピート)
- Disc repeat (ディスクリピート)
- Track repeatに戻る

メモ

フォルダーリピートは、再生中のフォルダー内の曲 (WMA/MP3 ファイル) だけを再生します。サブフォルダー内の曲は再生されません。

いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲を内蔵CDにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (通常 WMA/MP3)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムプレイ設定モードにする

FUNC ボタン、RDM ボタンの順に押す

3 ランダム再生を ON にする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



次の曲から、ランダムに選曲します。

メモ

トラックリピートのときに、ランダム再生を ON にすると、再生範囲がフォルダーリピートに切り換わり、ランダム再生します。

聞きたい曲やフォルダーをさがす

スキャン再生

今聞いているフォルダーの、曲の始めの部分だけを約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、すべてのフォルダーの、1曲目の始めの部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (WMA/MP3 37ページ)

聞きたい曲をさがすとき (トラックスキャン再生)

再生範囲をフォルダーリピートに切り換えませます。再生中のフォルダーの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

聞きたいフォルダーをさがすとき (フォルダースキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えませます。ディスク内のすべてのフォルダーの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンプレイ設定モードにする

FUNC ボタン、SCAN ボタンの順に押す

3 スキャン再生を始める

SCAN ボタンを押す



曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。

4 聞きたい曲 (フォルダー) が再生されたらスキャン再生をOFFにする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。

スキャンプレイ設定モードのときに
SCAN ボタンを押す



メモ

スキャン再生を始めた曲 (またはフォルダー) まで戻ると、スキャン再生は解除されます。トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がフォルダーリピートに切り換わり、スキャン再生します。

フォルダー名を見て聞きたいフォルダーをさがす

フォルダーリスト

フォルダー名の一覧(フォルダーリスト)を見ながら聞きたいフォルダーを選ぶことができます。

1 フォルダーリストモードにする

FUNC ボタン、F.LIST ボタンの順に押す

今聞いているフォルダーの番号の下に、“_”が表示されます。



選んだフォルダー内にWMA/MP3ファイルが収録されているときに、フォルダー内のファイルの数を表示します。

2 聞きたいフォルダー名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに6フォルダーずつ表示が切り換わります。

3 聞きたいフォルダーを選ぶ

聞きたいフォルダーと同じ番号のボタンを押す

選んだフォルダーが再生されます。

メモ

◀/▶ ボタンで聞きたいフォルダーを選び、▲ボタンで選んだフォルダーを再生することもできます。

WMA/MP3 再生を一時停止する

ポーズ

WMA/MP3 再生を一時停止することができます。

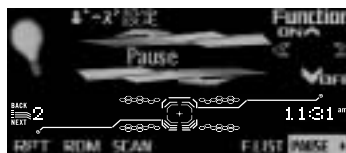
1 ポーズ設定モードにする

FUNC ボタン、PAUSE ボタンの順に押す

2 WMA/MP3 再生を一時停止する

PAUSE ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズのON/OFFをすることができます。



WMA/MP3

7

選曲方法を切り換える

◀または▶ ボタンを0.5秒以上押し続けたときに、早送り/早戻しにするか、10曲飛びに選曲するラフサーチにするかを選ぶことができます。

1

ラフサーチ設定モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、R.SRCH ボタンの順に押す

2

選曲方法を選ぶ

R.SRCH ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



FF/REV (早送り/早戻し)

→ Rough search (ラフサーチ)

→ FF/REVに戻る

WMA/MP3

8

フォルダー内の曲を10曲飛びに選曲する

ラフサーチ

10曲以上収録されているフォルダーの場合、10曲飛びに選曲することができます。

1

ラフサーチ設定モードにしてラフサーチを選ぶ

(☞ WMA/MP3 ⑦)

2

聞きたい曲を選ぶ

◀または▶ ボタンを0.5秒以上押す

▶ : 10曲先の曲を選ぶとき

◀ : 10曲前の曲を選ぶとき

メモ

10曲以下のフォルダーでは、ラフサーチを行うと、最初の曲と最後の曲を選曲します。ラフサーチ後に残りの曲が10曲以下になった場合も同様になります。

TAG 表示を ON/OFF する

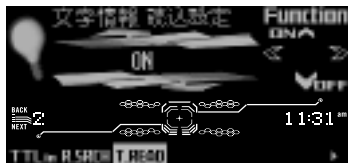
トラックタイトルやアーティストネームなどの文字情報を収録したディスクを再生している場合、ID3 Tag の表示を ON/OFF することができます。(この機能は、初期設定で ON になっています。)

1 文字情報読込設定モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、T.READ ボタンの順に押す

2 文字情報読込を ON にする

T.READ ボタンを押す
ボタンを押すごとに ON/OFF します。



メモ

文字情報読込を ON にすると、文字情報を読み込むために、聞いている曲の始めに戻ります。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

フォルダーネームのほかにトラックタイトルやアルバムタイトルを表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見ることができます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1、FORM 3

ボタン	表示内容
FOLDER	フォルダーネーム
FILE	ファイルネーム
ALBUM	アルバムタイトル
T.TTL	トラックタイトル
ARTIST	アーティストネーム
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
F+FIL	フォルダーネームとファイルネーム
FIL+T	ファイルネームとトラックタイトル
ALB+T	アルバムタイトルとトラックタイトル
TR+ART	トラックタイトルとアーティストネーム
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

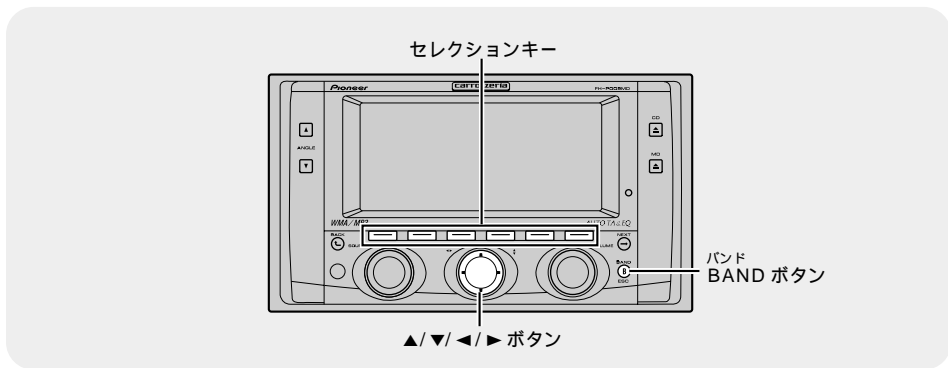
メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、▲/▼/◀/▶ ボタンでフォルダーや曲を選ぶことはできません。

FORM 2 を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。曲名 (Track Title) などが収録されていないCD-ROM で表示を切り換えると、“No track title” などが表示されます。

WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。



1 内蔵MD モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

RPT RDM SCAN TLIST GLIST PAUSE

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

3 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST → G.LIST → PAUSE → RPTに戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

グループリストモード(G.LIST)は、グルーブディスク再生中のみ表示され、操作することができます。

2 内蔵MD 同じ曲やグループを繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます。グルーブディスクの場合、今聞いている曲や1つのグループを繰り返し聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

グループディスク以外の場合

1 リピートプレイ設定モードにする

FUNC ボタンを押す

リピートプレイ設定モード以外を選んでいる場合は、RPT ボタンを押す。

2 リピート再生をONにする

RPT ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



今聞いている曲を繰り返し再生します。

グループディスクの場合

再生範囲について

再生範囲(繰り返し聞く範囲)は、次の中から選ぶことができます。

表示	リピート再生の内容
Track repeat	再生中の曲を繰り返し再生します。
Group repeat	再生中のグループを繰り返し再生します。
Disc repeat	本機にセットされているディスクを通して再生します。(通常は、このモードにしておきます。)

1 再生範囲切換モードにする

FUNC ボタンを押す

再生範囲切換モード以外を選んでいる場合は、RPT ボタンを押す。

2 再生範囲を切り換える

RPT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



- Track repeat (トラックリピート)
- Group repeat (グループリピート)
- Disc repeat (ディスクリピート)
- Track repeatに戻る

内蔵MD

3

いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をMDプレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順(ランダム)で再生することができます。

1 グループディスクの場合、再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ

(内蔵MD②)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムプレイ設定モードにする

FUNC ボタン、RDM ボタンの順に押す

3 ランダム再生をONにする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



次の曲から、ランダムに選曲します。

曲の始めの部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。グループディスクの場合、今聞いているグループの曲の始めの部分だけを次々に聞くことができます。また、すべてのグループの1曲目の始めの部分だけを次々に聞くこともできます。

1 グループディスクの場合、再生範囲 切換モードにして再生範囲を選ぶ

(内蔵MD 42ページ)

聞きたい曲をさがすとき (トラックスキャン再生)

再生範囲をグループリピートに切り換えます。再生中のグループの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

聞きたいグループをさがすとき (グループスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。ディスク内のすべてのグループの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンプレイ設定モードに する

FUNC ボタン、SCAN ボタンの順に
押す

3 スキャン再生を始める

SCAN ボタンを押す



曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。

4 聞きたい曲(グループ)が再生され たらスキャン再生をOFFにする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。

スキャンプレイ設定モードのときに
SCAN ボタンを押す



メモ

スキャン再生を始めた曲(またはグループ)まで戻ると、スキャン再生は解除されます。トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がグループリピートに切り換わり、スキャン再生します。

内蔵 MD

5

曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲を選ぶことができます。

1 トラックリストモードにする

FUNC ボタン、T.LIST ボタンの順に押す



今聞いている曲の番号の下に、“_”が表示されます。

2 聞きたい曲名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに6曲ずつ表示が切り換わります。

3 聞きたい曲を選ぶ

聞きたい曲と同じ番号のボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

曲名が収録されていないときは、“No T.Title”が表示されます。

◀/▶ ボタンで聞きたい曲を選び、▲ ボタンで選んだ曲を再生することもできます。

内蔵 MD

6

グループ名を見て聞きたいグループをさがす

グループリスト

グループ名の一覧(グループリスト)を見ながら聞きたいグループを選ぶことができます。

チェック グループディスクの場合に操作できません。

1 グループリストモードにする

FUNC ボタン、G.LIST ボタンの順に押す

今聞いているグループの番号の下に、“_”が表示されます。



選んだグループ内に登録されている曲の数が表示されます。

2 聞きたいグループ名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに6グループずつ表示が切り換わります。

3 聞きたいグループを選ぶ

聞きたいグループと同じ番号のボタンを押す

選んだグループが再生されます。

メモ

グループ名が収録されていないときは、“No G.Title”が表示されます。

◀/▶ ボタンで聞きたいグループを選び、▲ ボタンで選んだグループを再生することもできます。

内蔵MD
7

MD再生を一時停止する

ポーズ

MD再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

FUNC ボタン、PAUSE ボタンの順に押す

2 MD再生を一時停止する

PAUSE ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズのON/OFFをすることができます。

TI 再生 CLK 100Hz

内蔵MD
8

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

ディスクタイトルやトラックタイトルを表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見えることもできます。

タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけではなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。MDに漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1、FORM 3

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
G.TTL	グループタイトル
T.TTL	トラックタイトル
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
TTL1	グループタイトルとトラックタイトル
TTL2	ディスクタイトルとトラックタイトル
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

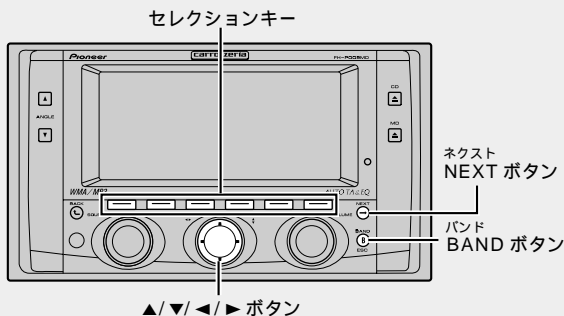
メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、▲/▼/◀/▶ ボタンでグループや曲を選ぶことはできません。

FORM 2 を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。タイトルが入力されていないMDで表示を切り換えると、“No title”が表示されます。

“G.TTL”、“TTL1”、“TTL2”は、グループディスク再生中のみ表示されます。

ラジオ
1

放送局を1局ずつ記憶させる

プリセットメモリー

1～6のボタンに、お好みの放送局を、1局ずつ手で記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す
(☞ ここだけで⑥ 26 ページ)

2 記憶させたい放送局を選局する

◀または▶ ボタンを押す
(☞ ここだけで⑥ 27 ページ)

3 “1”～“6”を表示する

NEXT ボタンを押す
“1”～“6”が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。



4 記憶させる

1～6のボタンの1つを2秒以上押す



押したボタンの番号(記憶番号)が点滅します。

記憶が終わると点滅が終わり、押したボタンに受信中の放送局が記憶されます。

メモ

記憶させた放送局を呼び出すには (☞ ラジオ②)

記憶させた放送局を呼び出す

プリセットチューニング

記憶させた放送局は、簡単に呼び出すことができます。

1 記憶させたバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す
(13 ここだけで⑥ 26 ページ)

2 記憶させた放送局を呼び出す

記憶させた放送局を順番に呼び出す

▲または▼ボタンを押す

▲：次の記憶番号の放送局を呼び出すとき

▼：前の記憶番号の放送局を呼び出すとき

記憶させた放送局を直接呼び出す

1 ~ 6 のボタンの 1 つを押す

確認

“1” ~ “6” が表示されていないときは、NEXT ボタンで、“1” ~ “6” を表示してから操作してください。



受信中の記憶番号

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

BSM chLIST

ST.SEL

BSM chLIST に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

BSM → chLIST → ST.SEL → BSM に戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

ラジオ
4

複数の放送局を自動的に記憶させる

BSM

受信状態の良い放送局をさがして、自動的に1～6のボタンに記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す
(ここだけで⑥ 26ページ)

2 BSMモードにする

FUNC ボタンを押す
BSMモード以外を選んでいる場合は、BSMボタンを押す。

3 BSMを始める

BSM ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



記憶が終わるとステーションリストモードに切り換わり、1のボタンに記憶した放送局を受信します。

4 聞きたい放送局を選ぶ

聞きたい放送局と同じ番号のボタンを押す
選んだ放送局を受信します。



今受信中の放送局の番号の下に、“_”が表示されます。

メモ

受信状態の良い放送局が、6局より少ないときは、前の記憶が残ることがあります。
BSMとは、Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)の略です。
記憶させた放送局を呼び出すには (⑥ **ラジオ②** 49ページ)

ラジオ
5

放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す

ステーションリスト

1～6のボタンに記憶させた放送局を、放送局名の一覧(ステーションリスト)の中から選ぶことができます。

1 ステーションリストモードにする

FUNCボタン、chLISTボタンの順に押す



今受信中の放送局の番号の下に、“_”が表示されます。

2 聞きたい放送局を選ぶ

聞きたい放送局と同じ番号のボタンを押す
選んだ放送局を受信します。

メモ

表示されている放送局名が、受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更することができます。(⑥ **ラジオ⑥**)
放送局名が登録されていない放送局の場合、周波数が表示されます。

受信している放送局に合わせて、表示する放送局名を選ぶことができます。

放送局名について

同じ周波数でも、地域によって受信する放送局は異なります。表示されている放送局名が受信している放送局名と異なる場合、放送局名を変更することができます。

注意

本機に登録されていない放送局名は選べません。

1 実際の放送局名と表示が異なる場合、放送局名選択モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ST.SEL ボタンの順に押す。

注意

現在受信している周波数以外の放送局名を変更することはできません。別の周波数の放送局名を変更したい場合、その周波数を受信して (E 27 ページ) から放送局名選択モードにしてください。

2 放送局名を選ぶ

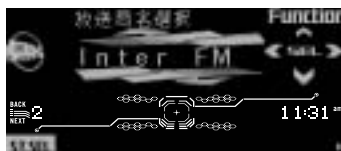
◀ または ▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の放送局名を選ぶとき
- ◀ : 前の放送局名を選ぶとき

3 選んだ放送局名に変更する

▲ ボタンを押す

選んだ放送局名に変更されます。

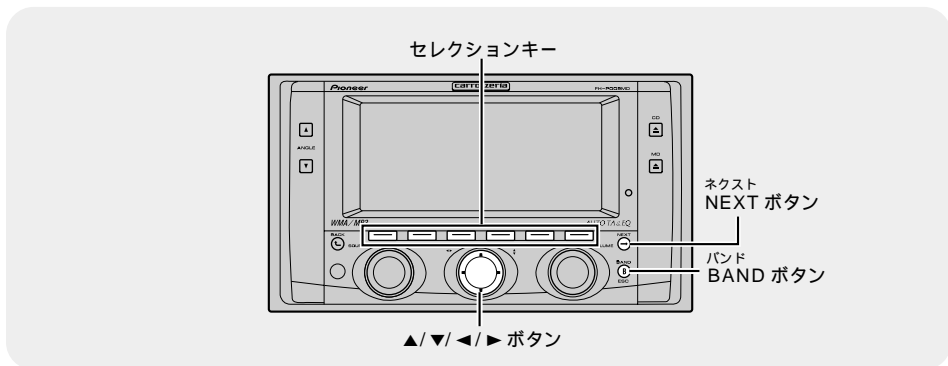


メモ

選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていないと、“No data”と表示されます。放送局名を表示させたくないときは、全て空白の表示を選んでください。

パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCDをお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を“FM M-CD”に変更して表示することができます。

パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を“FM TVsound”に変更して表示することができます。



1 マルチCD 聞きたいCDを直接選ぶ

ダイレクトサーチ

聞きたいCDにワンタッチで切り換えることができます。

1 “1” ~ “6” (または“7” ~ “12”) を表示する

NEXT ボタンを押す

“1” ~ “6” (または“7” ~ “12”) が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。



2 聞きたいCDを選ぶ

1 ~ 6 (または7 ~ 12) のボタンを押す



CD 番号

メモ

6連奏マルチCDプレーヤーをご使用の場合、“7” ~ “12” の表示には切り換わりません。

2 マルチCD モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



マルチCD 3 同じ曲やCDを繰り返し聞き返す

リピート再生

(つづき)

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST → D.LIST → PAUSE → TTLin → COMP → ITS.P → ITS.M → RPT に戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モード(TTLin)、ITS登録モード(ITS.M)を選んでいる場合、自動では解除されません。トラックリストモード(T.LIST)は、「CD TEXT」に対応しているマルチCD(CDX-P670など)で「CD TEXT」を再生しているときのみ表示され、操作することができます。

再生範囲について

再生範囲(繰り返し聞く範囲)は、次の中から選ぶことができます。

表示	リピート再生の内容
Track repeat	再生中の曲を繰り返し再生します。
Disc repeat	再生中のCDを繰り返し再生します。
Magazine repeat	マルチCDにセットされているすべてのCDを通して再生します。(通常はこのモードにしておきます。)

1 再生範囲切替モードにする

FUNC ボタンを押す

再生範囲切替モード以外を選んでいる場合は、RPT ボタンを押す。

2 再生範囲を切り換える

RPT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



- Track repeat (トラックリピート)
- Disc repeat (ディスクリピート)
- Magazine repeat (マガジンリピート)
- Track repeat に戻る

マルチCD 4 いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をマルチCDにまかせて、いつもと違う曲順(ランダム)で再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (※ マルチCD 53ページ)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムプレイ設定モードにする

FUNC ボタン、RDM ボタンの順に押す

3 ランダム再生をONにする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



次の曲から、ランダムに選曲します。

メモ

トラックリピートのときに、ランダム再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりランダム再生します。

マルチCD 5 聞きたい曲やCDを

今聞いているCDの、曲の始めの部分だけを約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、すべてのCDの、1曲目の始めの部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (※ マルチCD 53ページ)

聞きたい曲をさがすとき
(トラックスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

聞きたいCDをさがすとき
(ディスクスキャン再生)

再生範囲をマガジンリピートに切り換えます。マルチCD内のすべてのCDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンプレイ設定モードにする

FUNC ボタン、SCAN ボタンの順に押す

3 スキャン再生を始める

SCAN ボタンを押す



曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。

さがす

トラックスキャン再生/ディスクスキャン再生

4 聞きたい曲 (CD) が再生されたらスキャン再生をOFFにする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。

スキャンプレイ設定モードのときに
SCAN ボタンを押す



メモ

スキャン再生を始めた曲 (またはCD) まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりトラックスキャン再生します。

マルチCD

6

曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲を選ぶことができます。

1

トラックリストモードにする

FUNC ボタン、T.LIST ボタンの順に押す



今聞いている曲の番号の下に、“_”が表示されます。

ご注意

「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」を再生しているときだけ、トラックリストモードに切り換わります。

2

聞きたい曲名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに6曲ずつ表示が切り換わります。

3

聞きたい曲を選ぶ

聞きたい曲と同じ番号のボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

「CD TEXT」に、曲名が収録されていないときは、“No T.Title”が表示されます。
◀/▶ ボタンで聞きたい曲を選び、▲ ボタンで選んだ曲を再生することもできます。

マルチCD

7

タイトルを見て聞きたいCDをさがす

ディスクリスト

CDのタイトル一覧(ディスクリスト)を見ながら、聞きたいCDを選ぶことができます。

1

ディスクリストモードにする

FUNC ボタン、D.LIST ボタンの順に押す



今聞いているCDの番号の下に、“_”が表示されます。

2

聞きたいCDを選ぶ

聞きたいCDと同じ番号のボタンを押す
選んだCDが再生されます。

メモ

7～12枚目のディスクを選ぶ場合、NEXT ボタンを押して“7”～“12”を表示してから、手順2の操作で聞きたいCDを選びます。6連奏マルチCDプレーヤーをご使用の場合、“7”～“12”の表示には切り換わりません。

◀/▶ ボタンで聞きたいCDを選び、▲ ボタンで選んだCDを再生することもできます。

マガジンにCDがセットされていないときは、“No disc”が表示されます。また、タイトルが記憶されていないCDを入れたときは、“No D.Title”が表示されます。

CD再生を一時停止する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

FUNC ボタン、PAUSE ボタンの順に押す

2 CD再生を一時停止する

PAUSE ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズのON/OFFをすることができます。

TI PAUSE CLK [MENU]

CDのタイトルを記憶させる

CDにタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルはディスプレイに表示されます。

タイトル入力について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。タイトル入力しておく、CD再生時に入力したタイトルが表示されます。

CDにタイトルをつけるとディスクリスト (☞ マルチCD ⑦ 56ページ) で聞きたいCDをさがすこともできます。

「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P670」など) では、「CD TEXT」にあらかじめ収録されているCDタイトルで同様にディスクリスト (☞ マルチCD ⑦ 56ページ) をすることができます。

タイトルは10文字まで入力できます。

記憶はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの記憶は消えません。

タイトルは、ITS (☞ マルチCD ① 61ページ) と合わせてCD100枚分の記憶ができます。

100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

1 タイトルを入力したいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す

(☞ ここだけで② 28ページ)

2 タイトル入力モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、TTLin ボタンの順に押す

ご注意

「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P670」など) で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードに切り換えると、「入力できません」と表示され、タイトルを入力することはできません。(「CD TEXT」に収録されているCDタイトルは変更できません。)

3 タイトルを入力する

入力する位置を選ぶ

◀または▶ボタンを押す

▶：右に移動させるとき

◀：左に移動させるとき



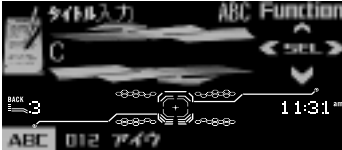
入力する位置でカーソルが点滅します。10文字まで入力できます。

入力する文字を選ぶ

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : 次の文字を選ぶとき

▼ : 前の文字を選ぶとき



選んだ文字が点滅します。

押すボタン	選べる文字
ABCボタン (ABCボタンを 押すごとに切り 換わります。)	アルファベットの小文字 (a ~ z)、空白 (_)
	アルファベットの大文字 (A ~ Z)、数字 (0 ~ 9)、 記号 (!、#、&など) 空白 (_)
012ボタン	数字 (0 ~ 9)、 記号 (!、#、&など)、 空白 (_)
アイウボタン (アイウボタンを 押すごとに切り 換わります。)	カタカナ (ア ~ ン)、 音引き (-)、 空白 (_)
	拗促音 (ア、ヨ、ッなど)、 濁点、半濁点、 空白 (_)

4 入力が終わったら 10文字目を点滅させる



余ったところを空白にして、10文字目を点滅させます。

5 入力したタイトルを 記憶させる

▶ ボタンを押す



入力位置の点滅が終わり、入力したタイトルが記憶されます。

6 タイトル入力モードを 解除する

BAND ボタンを押す

メモ

タイトル入力中 (文字が点滅しているとき) にBANDボタンを押すと、タイトル入力モードが途中で解除されます。(この場合、入力中のタイトルは記憶されません。)

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、低音域を押し上げたりすることができます。

チェック COMP/DBE機能の付いたマルチCDプレーヤーで操作できます。

COMPについて

COMPとは、Compression (コンプレッション)の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

DBEについて

DBEとは、Dynamic Bass Emphasis (ダイナミックバスエンファシス)の略です。DBEは、車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

1 コンプレッション設定モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、COMP ボタンの順に押す



現在のCOMP/DBEの状態が表示されます。

ご注意

COMP/DBE機能のないマルチCDを組み合わせたときは、“No COMP”が表示されて、操作ができません。

2 機能を選ぶ

COMP ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

- COMP OFF → COMP 1 (コンプレッション 1)
- COMP 2 (コンプレッション 2)
- COMP OFF → DBE 1 → DBE 2
- COMP OFFに戻る

メモ

COMP、DBEともに1より2の方が効果が大きくなります。

記憶させた曲だけ再生する (☞ マルチCD ⑫ 62 ページ) ために、あらかじめ聞きたい曲をマルチCDに記憶させておきます。

ITS について

ITSとは、Instant Track Selection (インスタントトラック セレクション) の略です。

ITSは、聞きたい曲だけを記憶させておき、それを再生する (☞ マルチCD ⑫ 62 ページ) 機能です。

曲の記憶はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの記憶は消えません。

CD1枚につき99曲まで記憶することができます。(「CDX-P1250」「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDでは、記憶できる曲が24曲目までになります。)

ITSは、タイトル (☞ マルチCD ⑨ 58 ページ) と合わせてCD100枚分の記憶ができます。

100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

1 記憶させたいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す

(☞ ここだけで⑥ 28 ページ)

2 ITS 登録モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ITS.M ボタンの順に押す

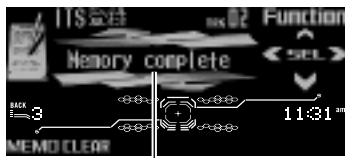
3 記憶させたい曲を選ぶ

◀または▶ボタンを押す

(☞ ここだけで⑥ 29 ページ)

4 記憶させる

MEMO ボタンを押す



約2秒間表示され、記憶したことを知らせます。

5 ITS 登録モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ITS登録モードでは、▲ボタンでも曲を登録することができます。

マルチCD 12 記憶させた曲だけ再生する

ITS 再生

ITS 登録 (☞ マルチCD ① 61 ページ) で記憶させた曲だけを再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (☞ マルチCD ⑤ 53 ページ)

選んだ再生範囲内でITS再生が行われます。

2 ITS プレイ設定モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ITS.P ボタンの順に押す

3 ITS 再生を ON にする

ITS.P ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



ITS 再生が始まり、記憶させた曲だけが再生されます。

メモ

手順1で選んだ再生範囲内に、記憶させた曲がない場合は、“ITS empty” が約2秒間表示されて、ITS再生は行われません。

マルチCD 13 記憶させた曲を1曲ずつ記憶から消す

ITS 消去 (1曲ごと)

記憶させた曲を1曲ずつ消すことができます。

1 ITS 再生を ON にする (☞ マルチCD ②)

2 消去したい曲を再生する

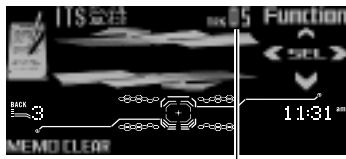
◀または▶ ボタンを押す
(☞ ここだけで⑥ 29 ページ)

3 ITS 登録モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ITS.M ボタンの順に押す

4 消去する

CLEAR ボタンを押す



次に記憶されている曲

再生していた曲が記憶から消去され、次に記憶されている曲が再生されます。

5 ITS 登録モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

現在の再生範囲内に記憶させた曲がなくなった場合は、“ITS empty” が約2秒間表示されて、ITS再生がOFFになります。

ITS登録モードでは、▼ボタンでも曲を消去することができます。

記憶させた曲をCDごとに記憶から消す

ITS 消去 (CDごと)

記憶させた曲をCDごとに消すことができます。

1 消去したいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す

(☞ ここだけで⑥ 28ページ)

ITS再生がONになっているときは、ITS再生をOFFにしてください。(☞ マルチCD⑩)

2 ITS登録モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ITS.M ボタンの順に押す

3 消去する

CLEAR ボタンを押す



約2秒間表示され、消去したことを知らせます。

4 ITS登録モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ITS登録モードでは、▼ボタンでもCDごとに曲を消去することができます。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

「CD TEXT」(☞ はじめに② 10ページ)に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CDTEXT」再生中に、ディスクタイトルのほかにトラックタイトルやディスクアーティストネームを表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見えることもできます。

タイトル表示/タイトルスクロール(つづき)

チェック 「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)の機能です。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1、FORM 3

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
D.ART	ディスクアーティストネーム
T.TTL	トラックタイトル
T.ART	トラックアーティストネーム
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
TTL1	ディスクタイトルとトラックタイトル
TTL2	ディスクタイトルとディスクアーティストネーム
TTL3	トラックタイトルとトラックアーティストネーム
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

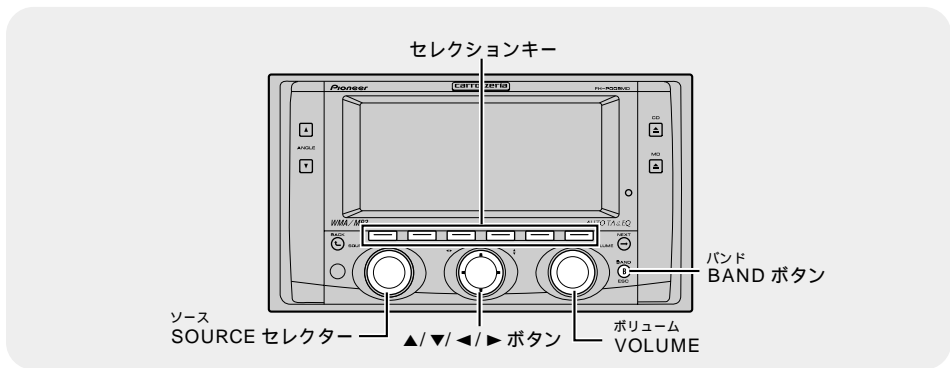
メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、▲/▼/◀/▶ボタンでCDや曲を選ぶことはできません。

FORM 2を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。トラックアーティストネームなどが記憶されていないCDで表示を切り換えると、「No artist name」などが表示されます。

タイトルが入力されていないCDで表示を切り換えると、「No title」が表示されます。



マルチMDプレーヤーについて

本機でのマルチMDプレーヤー（例：「MD-P100II」）の基本的な操作方法を説明しています。マルチMDプレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせたマルチMDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

画面例)



マルチMDの 1 ふだんの操作

ここだけの操作で、マルチMDプレーヤーでMDを聞くことができます。

1 ソースをマルチMDにする

SOURCE セレクターを回す

2 聞きたいMDを選ぶ

▲または▼ ボタンを押す

3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

4 音量を調節する

VOLUME を回す

5 マルチMD再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする

メモ

1～6ボタンで直接ディスクを選ぶこともできます。
(※ マルチCD 52ページ)

ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したいモードのボタンを押す

RPT RDM SCAN DLIST

3 選んだモードを操作する

再生範囲切換モード (RPT)

RPT ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Track repeat → Disc repeat → MultiMD repeat → Track repeatに戻る

ランダムプレイ設定モード (RDM)

RDM ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Random OFF → Random 1 → Random 2 → Random OFFに戻る

スキャンプレイ設定モード (SCAN)

SCAN ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Scan OFF → Scan 1 → Scan 2 → Scan OFFに戻る

ディスクリストモード (D.LIST)

ディスクリストモードの操作方法はマルチ CD と同じです。(※ マルチ CD ⑦ 56 ページ)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

ディスクタイトルやトラックタイトルを表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見えることもできます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1、FORM 3

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
T.TTL	トラックタイトル
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

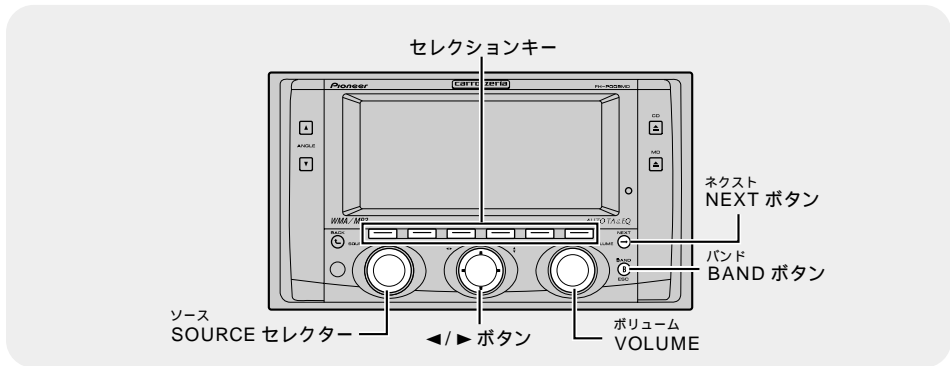
ボタン	表示内容
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、◀/▶ ボタンで曲を選ぶことはできません。

FORM 2 を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。タイトルが入力されていないMDで表示を切り換えると、“No title”が表示されます。



テレビについて

本機でのテレビ (例: 「AVX-P777」) の基本的な操作方法を説明しています。テレビの機能について、詳しくは組み合わせたテレビの取扱説明書をご覧ください。

本機では、記憶させたチャンネルを一覧表示して見たいチャンネルを選ぶこともできます。(☞ テレビ④)

画面例)



テレビ
1

テレビのふだんの操作

ここだけの操作で、テレビを見ることができます。

1 ソースをテレビにする

SOURCE セレクターを回す

2 バンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

3 チャンネルを選局する

◀または▶ ボタンを押す

4 音量を調節する

VOLUME を回す

5 テレビの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする

メモ

1 ~ 12 ボタンでお好みのチャンネルの記憶や呼び出しを行うことができます。(☞ ラジオ①② 48、49 ページ)

ファンクション モードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したいモードのボタンを押す

BSSM chLIST MPX

3 選んだモードを操作する

BSSM 設定モード (BSSM)

BSSM ボタンを押すごとに ON/OFF します。BSSM が終了すると、自動的にチャンネルリストモードに切り換わります。

チャンネルリストモード (chList)

chList ボタンを押すとチャンネルリストモード(テレビ③)に切り換わります。(チャンネルリスト機能に対応していないテレビでは、“chList”が表示されず、操作することができません。)

マルチプレックス選択モード (MPX)

MPX ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Main → Sub → Main & Sub → Main に戻る

4 ファンクションモードを 解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ファンクションモードは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

BSSM とは、Best Stations Sequential Memory (ベストステーションズシーケンシャルメモリー) の略です。

チャンネル一覧から見た いチャンネルを呼び出す

チャンネルリスト

1 ~ 12 のボタンに記憶させたチャンネルの一覧(チャンネルリスト)から見たいチャンネルを選ぶことができます。

チェック チャンネルリスト機能に対応しているテレビで操作できます。

1 チャンネルリスト モードにする

FUNC ボタン、chLIST ボタンの順に押す



今受信中のチャンネルの番号の下に、“_”が表示されます。

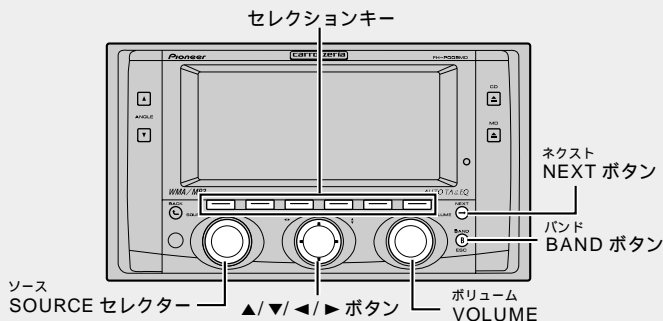
2 見たいチャンネルを選ぶ

見たいチャンネルと同じ番号のボタンを押す

選んだチャンネルを受信します。

メモ

7 ~ 12 ボタンに記憶されているチャンネルを選ぶ場合、NEXT ボタンを押して“7”~“12”を表示してから、手順 2 の操作で見たいチャンネルを選びます。



DVD プレーヤーについて

本機でのDVDプレーヤー（例：マルチDVD「XDV-P9II」、1枚型DVD「SDV-P7」）の基本的な操作方法を説明しています。DVDプレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせたDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

画面例)



DVDの 1 1 ぶだんの操作

ここだけの操作で、DVDプレーヤーでディスクを聞くことができます。

1 ソースをDVDにする

SOURCE セレクターを回す

2 マルチDVDの場合、聞きたいディスクを選ぶ

▲または▼ボタンを押す

3 聞きたいチャプター/トラックを選ぶ（または早送り/早戻し）

◀または▶ボタンを押す

4 音量を調節する

VOLUME を回す

5 DVDプレーヤーの再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする

メモ

マルチDVDの場合、1～6ボタンで直接ディスクを選ぶこともできます。

(※ マルチCD ① 52 ページ)

ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したいモードのボタンを押す

DVD、ビデオCD再生時

RPT DLIST PAUSE ▶

TTLin ▶

CD再生時

RPT RDM SCAN DLIST PAUSE ▶

TTLin ITS.P ITS.M ▶

セレクションキーを切り換えるには、NEXT ボタンを押します。

3 選んだモードを操作する

再生範囲切替モード (RPT) (DVD再生時)

RPT ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Disc repeat → Chapter repeat → Title repeat → Disc repeatに戻る

リピートプレイ設定モード (RPT) (ビデオCD、CD再生時)

RPT ボタンを押すごとにON/OFFします。

ランダムプレイ設定モード (RDM)

RDM ボタンを押すごとにON/OFFします。

スキャンプレイ設定モード (SCAN)

SCAN ボタンを押すごとにON/OFFします。

ディスクリストモード (D.LIST)

ディスクリストモードの操作方法はマルチCDと同じです。(☞ マルチCD ⑦ 56 ページ)

ポーズ設定モード (PAUSE)

PAUSE ボタンを押すごとにON/OFFします。

タイトル入力モード (TTLin)

タイトル入力モードの操作方法はマルチCDと同じです。(☞ マルチCD ⑨ 58 ページ)

ITS プレイ設定モード (ITS.P)

ITS プレイ設定モードの操作方法はマルチCDと同じです。(☞ マルチCD ⑩ 62 ページ)

ITS 登録モード (ITS.M)

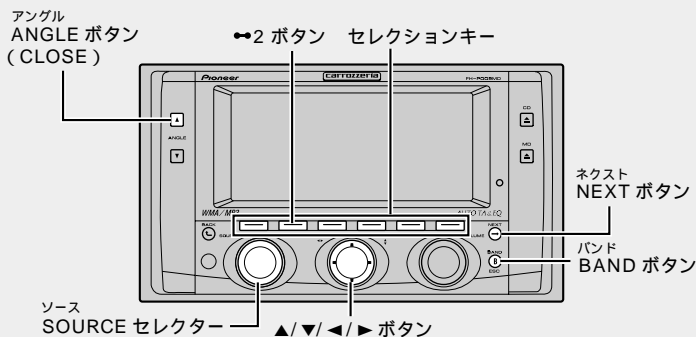
ITS 登録モードの操作方法はマルチCDと同じです。(☞ マルチCD ⑪ 61 ページ)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モード (TTLin)、ITS 登録モード (ITS.M) を選んでいる場合、自動では解除されません。“D.LIST” “TTLin” “ITS.P” “ITS.M” は、マルチDVDでCDを再生している場合に表示されます。



音の調節

1

DSP について

本機には、3-way ネットワークモード (NW) とスタンダードモード (STD) の2つの動作モードがあります。お好みに合わせて、モードを切り換えることができます。初期設定は、スタンダードモードになっています。(☞ はじめに ③ 12 ページ)

動作モードについて

3-way ネットワークモード (NW) は、高・中・低音域のそれぞれの音域 (バンド) を専用のアンプとスピーカーで再生する3-way マルチアンプ・マルチスピーカーシステムを構築することができます。3-way ネットワークモードには、マルチアンプ・マルチスピーカーシステムに不可欠なネットワーク機能やタイムアライメント機能があり、各音域の設定条件を厳密にコントロールすることができます。

スタンダードモード (STD) は、フロント・リアの4スピーカーシステムまたはフロント・リア・サブウーファーの6スピーカーシステムを構築することができます。また、スタンダードモードには、簡単にリアルな音場を再現することができるSFC機能があります。

メモ

車のバッテリー交換などで、本機に電源が供給されなくなると、本機のマイコンは初期状態に戻ります。この場合、本機に記憶させたオーディオの調節内容がすべて消去されてしまいます。オーディオの調節が終了したら、再設定に手間のかかる調節内容を記録しておくことをおすすめします。(☞ その他 ④ 118 ページ)

3-way ネットワークモードを選んでいる場合、Auto TA&EQを行うことはできません。

動作モードのマークについて

この説明書では、説明を分かり易くするため、以下のマークを使用しています。

NW: このマークは、3-way ネットワークモードにしかない機能および3-way ネットワークモードでの操作をあらわします。

STD: このマークは、スタンダードモードにしかない機能およびスタンダードモードでの操作をあらわします。

何もマークが付いていない機能や操作は、2つのモードに共通して使用できます。

オーディオ調節のポイント

心地よい音の空間を手軽に演出したり、お好みに合わせてきめ細かく調節することができます。

3-way ネットワークモード **NW**

次の順に設定や調節することで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

- 音場の中心で聞く (POSI)
- 左右の音量バランスを調節する (BAL)
- タイムアライメントを調節する (T.AL)
- ネットワークを調節する (NW)
- イコライザーカーブを選ぶ (EQ)
- イコライザーカーブを大まかに補正する (EQ1)
- イコライザーカーブを細かく調節する (EQ2)

便利な機能

次の機能は、お好みに合わせてお使いください。

- 音響効果をかける (BBE) **NW**
- 小音量時の音にメリハリをつける (LOUD)
- イメージに合った演奏会場を再現する (SFC) **STD**
- 騒音に合わせて音量を変える (ASL)
- 各ソースの音量の違いをそろえる (SLA)

スタンダードモード **STD**

手軽に心地よい音場を演出する

次の機能は、車種によって異なる音響特性に合わせた音場の演出を手軽に調節することができます。

- イコライザーカーブを選ぶ (EQ)
- 音場の中心で聞く (POSI)
- イコライザーカーブを大まかに補正する (EQ1)

きめ細かくお好みに合わせて調節する

次の順に設定や調節することで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

- 音場の中心で聞く (POSI)
- 前後左右の音量バランスを調節する (F/B)
- サブウーファーを使う (SW1、SW2)
- 低い音をスピーカーから出力させないようにする (HPF F、HPF R)
- オートタイムアライメント&イコライジングを行う
- イコライザーカーブを選ぶ (EQ)
- イコライザーカーブを大まかに補正する (EQ1)
- イコライザーカーブを細かく調節する (EQ2)

オーディオ調節モードの切り換えかた

音を調節するときは、オーディオ調節モードを切り換えて操作します。

1 オーディオ調節モードにする

AUDIO ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

NW

BAL NW POSI T.AL EQ1 EQ2

BBE LOUD ASL SLA

BAL NW POSI T.AL EQ1 EQ2 に戻る

STD

F/B LOUD SFC EQ1 EQ2 ASL

POSI T.AL A.EQ SW1 SW2 HPF

HPF SLA

F/B LOUD SFC EQ1 EQ2 ASL に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 オーディオ調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

AUDIO ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

NW

BAL → NW → POSI → T.AL → EQ1 → EQ2 → BBE → LOUD → ASL → SLA → BALに戻る

STD

F/B → LOUD → SFC → EQ1 → EQ2 → ASL → POSI → T.AL → A.EQ → SW1 → SW2 → HPF F → HPF R → SLA → F/Bに戻る

メモ

オーディオ調節モードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、イコライザー13バンド調節モード(EQ2)やタイムアライメント調節モード(T.AL)、ネットワーク調節モード(NW)を選んでいる場合、自動では解除されません。

“SW2”は、サブウーファーモードをONにしているときだけ表示されます。ラジオのFMを聞いているときは、“SLA”は表示されません。

音場の中心で聞く

リスニングポジションセレクター

乗車位置や人数に合わせて、聞く位置を選ぶことができます。(3-way ネットワークモードを選んでいる場合、“ALL” を選ぶことはできません。)

乗車位置について



Front Seat Left



Front Seat Right



Front Seat Right&Left



All Seat

1 リスニングポジション
セレクターモードにする

PWR

AUDIO ボタン、POSI ボタンの順に
押す

S10

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、
POSI ボタンの順に押す

2 乗車位置を選ぶ

選びたい乗車位置のボタンを押す

同じボタンを押すごとに ON/OFF します。

ボタン	乗車位置
FL	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
FR	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
FRONT	同乗者が助手席にいるとき
ALL	同乗者が後部座席にいるとき S10



選んだ乗車位置が表示されます。

メモ

▲、▼、◀、または▶ ボタンで乗車位置を選ぶこともできます。

ボタン	乗車位置
◀	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
▶	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
▲	同乗者が助手席にいるとき
▼	同乗者が後部座席にいるとき S10

前後左右の音量バランスを調節する

フェーダー / バランス

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。(3-way ネットワークモードでは、前後のバランス調節はできません。)

NW

1 音量バランス調節モードにする

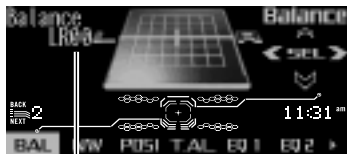
AUDIO ボタンを押す

音量バランス調節モード以外を選んでいる場合は、BAL ボタンを押す。

2 左右の音量バランスを調節する

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 右を強めるとき
- ◀ : 左を強めるとき



左右のバランスはL25 ~ R25の範囲で調節できます。

STD

1 音量バランス調節モードにする

AUDIO ボタンを押す

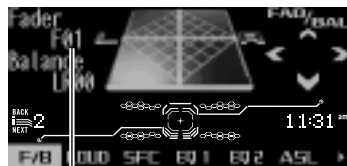
音量バランス調節モード以外を選んでいる場合は、F/B ボタンを押す。

2 音量バランスを調節する

前後を調節する

▲または▼ ボタンを押す

- ▲ : 前を強めるとき
- ▼ : 後ろを強めるとき

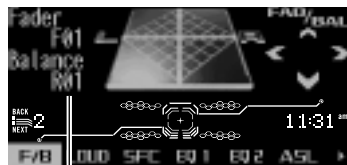


前後のバランスはF25 ~ R25の範囲で調節できます。

左右を調節する

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 右を強めるとき
- ◀ : 左を強めるとき



左右のバランスはL25 ~ R25の範囲で調節できます。

タイムアライメント を選ぶ

タイムアライメント

3種類のタイムアライメントの中から、お好みのタイムアライメントを選ぶことができます。

タイムアライメントについて

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節する機能です。

1 タイムアライメント調節モードにする

確認

リスニングポジションセレクターモードで“FL”が“FR”を選んでいないと、タイムアライメントの調節をすることはできません。



AUDIO ボタン、T.AL ボタンの順に押す



AUDIO ボタン、NEXT ボタン、T.AL ボタンの順に押す

2 タイムアライメントを選ぶ

選びたいタイムアライメントのボタンを押す

ボタン	タイムアライメント
INTL	初期設定状態 (ご購入直後の状態)
A.TA	Auto TA&EQ で作成したもの (音の調節② 88 ページ)
CUSTM	お好みに合わせて調節したもの

メモ

Auto TA&EQを行っていないときは、“A.TA”を選ぶことはできません。

3-way ネットワークモードを選んでいるときは、“A.TA”を選ぶことはできません。

タイムアライメント を調節する

タイムアライメント調節

厳密にタイムアライメントを調節することができます。

1 タイムアライメント調節モードにして、タイムアライメントを選ぶ

調節の元になるタイムアライメントを選ぶ (音の調節②)

2 各スピーカーの距離を調節する

調節するスピーカーを選ぶ

◀または▶ ボタンを押す



High Left、High Right、Mid Right、Mid Left、Low Left、Low Right の中から選ぶことができます。



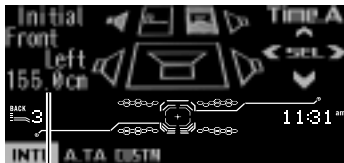
Front Left、Front Right、Rear Right、Rear Left、Sub. W (Subwoofer) の中から選ぶことができます。

距離を調節する

▲または▼ ボタンを押す

▲ : 距離を遠くするとき

▼ : 距離を近くするとき



0.0 cm ~ 400.0 cm の範囲で調節できます。

3 タイムアライメント調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

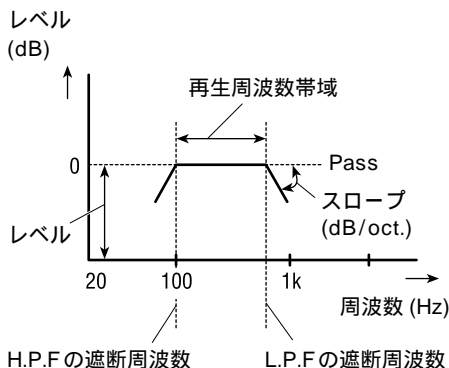
サブウーファーモードをOFFにしているときは、“Sub. W”には、切り換わりません。

ネットワークについて

ネットワーク機能は、オーディオ信号を各音域ごとに分割し、それぞれの音域を各音域専用のスピーカーユニットで再生します。各スピーカーユニットの特性に合わせ、再生周波数帯域（ローパスフィルターやハイパスフィルター）やレベル、位相などを厳密に調節することができます。

調節項目

ネットワーク機能は、以下の項目の調節が可能です。接続した各スピーカーユニットの再生周波数帯域や特性に合うよう調節してください。



再生周波数帯域

ハイパスフィルター (H.P.F.) やローパスフィルター (L.P.F.) の遮断周波数調節は、各スピーカーユニットの再生周波数帯域を設定することができます。

H.P.F. は、設定した周波数以下の周波数（低音域）をカットし、高い周波数だけを通すフィルターです。

L.P.F. は、設定した周波数以上の周波数（高音域）をカットし、低い周波数だけを通すフィルターです。

レベル

スピーカーユニット間の再生レベルを補正することができます。

スロープ

H.P.F./L.P.F.のスロープ（フィルター特性の減衰量の傾き）調節は、スピーカーユニット間の音のつながりを調節することができます。

スロープは、周波数が1オクターブ高く（または低く）なったときに、信号が何dB減衰するかをあらわす値です（単位：dB/oct.）。傾きを急にすると、信号が減衰する割合が大きくなります。

位相

各スピーカーユニットの入力信号に対する位相（正相/逆相）を切り換えることができます。スピーカー間の音のつながりが悪いときは、位相を切り換えてみてください。スピーカー間の音のつながりが良くなる場合があります。

ネットワーク調節のポイント

遮断周波数調節のポイント

低音域スピーカーをリアトレイに設置した場合、“L LPF”の遮断周波数を高く設定すると、低音が分離して後から聞こえてくるようになります。“L LPF”の遮断周波数は、100 Hz以下に設定することをお勧めします。

中音域や高音域のスピーカーは、低音域のスピーカーより耐入力が低く設定されているのが一般的です。“M HPF”や“H HPF”の遮断周波数を必要以上に低く設定すると、強い低音信号の入力によってスピーカーが破損する恐れがありますので、ご注意ください。

レベル調節のポイント

中音域には、多くの楽器の基本周波数が含まれています。最初に中音域のレベル調節を行い、高音域、低音域の順でレベルを調節することをお勧めします。

スロープ調節のポイント

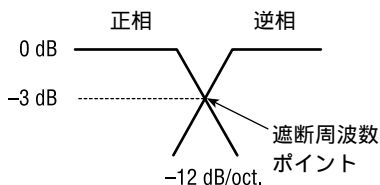
スロープの絶対値を小さく(傾きをゆるやかに)すると、隣り合うスピーカーユニット間の干渉によって周波数特性が影響を受けやすくなります。

スロープの絶対値を大きく(傾きを急に)すると、スピーカーユニット間の音のつながりが悪くなり、音が分離して聞こえるようになります。

スロープを 0 dB/oct. (Pass) に設定すると、オーディオ信号はフィルター回路を回避するため、フィルター回路は効果がなくなります。

位相調節のポイント

両側のフィルター共に遮断周波数ポイントのスロープ設定値を - 12 dB/oct. に設定した場合、フィルターの遮断周波数において位相が 180 度反転します。この場合、位相を反転すると、音のつながりが良くなります。



スピーカーユニットにミュートをかける

各スピーカーユニット(フィルター)をミュートすることができます。ミュートしたスピーカーユニット(フィルター)からは、音が出なくなります。

選んだスピーカーユニット(フィルター)をミュートした場合、“MUTE” が点滅し、何も調節できなくなります。

ミュートしたスピーカーユニット(フィルター)以外のスピーカーユニット(フィルター)は調節することができます。

1 ネットワーク調節モードにする

AUDIO ボタン、NW ボタンの順に押す

2 ミュートするスピーカーユニット(フィルター)を選ぶ

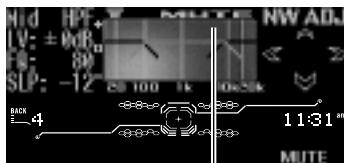
ミュートしたいスピーカーユニット(フィルター)のボタンを押す

ボタン	スピーカーユニット(フィルター)
L LPF	低音域スピーカーのLPF
M HPF	中音域スピーカーのHPF
M LPF	中音域スピーカーのLPF
H HPF	高音域スピーカーのHPF

3 選んだスピーカーユニット(フィルター)をミュートする

MUTE ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



“MUTE” が点滅します。

ネットワークを調節する **NW**

ネットワーク調節

各スピーカーユニットの再生周波数帯域やレベル、位相などを調節することで、各スピーカーユニットの特性に合わせた厳密な設定をすることができます。

1 ネットワーク調節モードにする

AUDIO ボタン、NW ボタンの順に押す

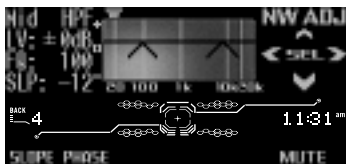
2 調節するスピーカーユニット (フィルター) を選ぶ

調節したいスピーカーユニット (フィルター) のボタンを押す

ボタン	スピーカーユニット (フィルター)
L LPF	低音域スピーカーのLPF
M HPF	中音域スピーカーのHPF
M LPF	中音域スピーカーのLPF
H HPF	高音域スピーカーのHPF

3 遮断周波数を調節する

◀または▶ ボタンを押す



L LPF、M HPF を選んだとき

31.5 ↔ 40 ↔ 50 ↔ 63 ↔ 80 ↔ 100
↔ 125 ↔ 160 ↔ 200 (Hz)

M LPF、H HPF を選んだとき

1.6 ↔ 2 ↔ 2.5 ↔ 3.15 ↔ 4 ↔ 5
↔ 6.3 ↔ 8 ↔ 10 ↔ 12.5 ↔ 16 (kHz)

4 レベルを調節する

▲または▼ ボタンを押す

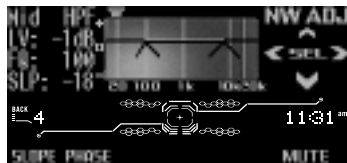


0 dB ~ - 24 dB の範囲で調節できます。

5 スロープを調節する

SLOPE ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



L LPF を選んだとき

- 12 → - 18 → - 6 (dB/oct.)

M HPF を選んだとき

- 12 → - 18 → Pass (0) → - 6 (dB/oct.)

M LPF を選んだとき

- 12 → Pass (0) → - 6 (dB/oct.)

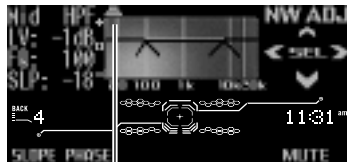
H HPF を選んだとき



- 12 → - 6 (dB/oct.)

6 位相を切り換える

PHASE ボタンを押す

ボタンを押すごとに位相が切り換わります。



正相 (Normal : ) か逆相 (Reverse : )
かが表示されます。

7 ネットワーク調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

本機では、RCA出力端子に接続したサブウーファーの調節を行うことができます。(この機能は、初期設定でONになっています。)

位相切り換えについて

サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相どろろが反転(干渉)すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。車内条件によって、位相の正相(フロント/リアスピーカーと同時に出力される)が良いか、逆相(フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される)が良いかを選んで設定してください。



4 サブウーファー調節モードにする

SW2 ボタンを押す

5 カットオフ周波数とレベルを調節する

周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 高い周波数を選ぶとき
- ◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

レベルを調節する

▲または▼ ボタンを押す

- ▲ : レベルを大きくするとき
- ▼ : レベルを小さくするとき



レベルは -24 ~ +6 の範囲で調節できます。

メモ

サブウーファーをOFFにしたときは、サブウーファー調節モード(SW2)には、切り換わりません。

1 サブウーファーモードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、SW1 ボタンの順に押す

2 サブウーファーをONにする

SW1 ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 位相を切り換える

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : Normal (正相)
- ◀ : Reverse (逆相)

低い音を出力しないようにする **STD**

ハイパスフィルター (HPF)

ハイパスフィルターをONにすると、選んだ周波数より低い周波数の音が各スピーカーから出力されなくなります。フロントスピーカー、リアスピーカーのそれぞれでお好みの周波数を設定することができます。

ハイパスフィルター (HPF) について

ハイパスフィルターは、設定した周波数から下の音域 (低域) をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターをONにすることにより、サブウーファーとの音のつながりを調節することができます。

カットオフ周波数について

50、63、80、100、125 (単位: Hz) から選んだ周波数より高い音域がフロントまたはリアスピーカーから出力されます。

フロントスピーカーの調節をするとき

1 フロントハイパスフィルター調節モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、HPF F ボタンの順に押す

2 フロントハイパスフィルターをONにする

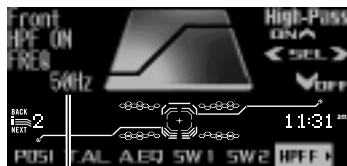
HPF F ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 フロントハイパスフィルターのカットオフ周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 高い周波数を選ぶとき
- ◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

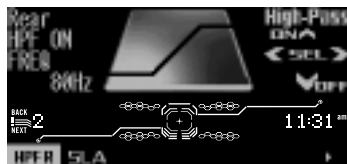
リアスピーカーの調節をするとき

1 リアハイパスフィルター調節モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタンを2回、HPF R ボタンの順に押す

2 リアハイパスフィルターをONにする

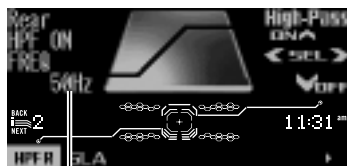
HPF R ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 リアハイパスフィルターのカットオフ周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 高い周波数を選ぶとき
- ◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

オートイコライザーを ON/OFF する **STD**

オートイコライザー

Auto TA&EQ (音の調節② 88ページ) で作成したオートイコライザーカーブのON/OFFをすることができます。

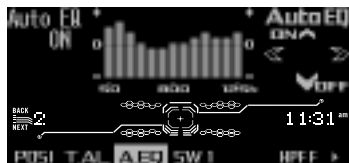
1 オートイコライザーモードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、A.EQ ボタンの順に押す

2 オートイコライザーを ON/OFF する

A.EQ ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

Auto TA&EQ (音の調節② 88ページ) を行っていないときは、オートイコライザーモードの操作はできません。

イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの中から好みのおイコライザーカーブを選ぶことができます。

CUSTOM について

“CUSTOM1”と“CUSTOM2”は、お好みに合わせて調節することができます。(音の調節② 82ページ)

FLAT について

イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

1 イコライザーモードにする

EQ ボタンを押す

2 イコライザーカーブを選ぶ

選みたいイコライザーカーブのボタンを押す

ボタン	イコライザーカーブ
CLRTY	CLARITY
RHYTHM	RHYTHM
SENS	SENSITIVE
NRW	NARROW
FLAT	FLAT
CSTM1	CUSTOM1
CSTM2	CUSTOM2



選んだイコライザーカーブが表示されます。

メモ

“CSTM2”は、NEXT ボタンを押して、“CSTM2”を表示してから、手順2の操作で選びます。
◀または▶ ボタンでイコライザーカーブを選ぶこともできます。
イコライザーモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

音の調節

14

イコライザーカーブ
を大まかに補正する

ニュアンスコントロール

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを調節することで、お好みの音質をつくることができます。

1 調節したいイコライザーカーブ
を選ぶ (音の調節 81 ページ)2 イコライザー調節
モードにする

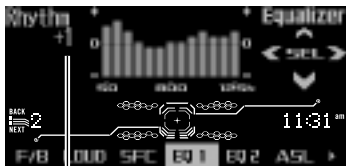
AUDIO ボタン、EQ1 ボタンの順に押す

3 イコライザーカーブを
調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : 強めるとき

▼ : 弱めるとき



- 6 ~ + 6 の範囲で調節できます。

メモ

◀ または ▶ ボタンでイコライザーカーブを選ぶこともできます

“FLAT” や全ての周波数が “0” に設定されているイコライザーカーブでは、ニュアンスコントロールすることはできません。

音の調節

15

イコライザーカーブ

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数レベルを細かく調節することができます。

CUSTOM1 について

“CUSTOM1” には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(内蔵CDとマルチCD、内蔵MDとマルチMDは、同じ設定になります。)

“CUSTOM2” 以外のカーブを選んでいるときに調節すると、“CUSTOM1” に記憶されます。

CUSTOM2 について

“CUSTOM2” は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。

“CUSTOM2” を選んでいるときに調節すると、調節したカーブが新しい“CUSTOM2”として記憶されます。

1 調節したいイコライザーカーブ
を選ぶ (音の調節 81 ページ)2 イコライザー 13 バンド調節
モードにする

AUDIO ボタン、EQ2 ボタンの順に押す

を細かく調節する

イコライザー調節

音の調節
16

音響効果をかける

NW

BBE

お好みに合わせてBBEの音響効果をかけることができます。

BBEについて

BBEは、音楽再生時に発生する高調波成分の遅延、振幅の狂いを位相補正と高域ブーストを組み合わせることで、極めて原音に近い再生音にすることができます。このため、鮮明度が高く、ライブ演奏に近い自然な臨場感を再現することができます。

1 BBEモードにする

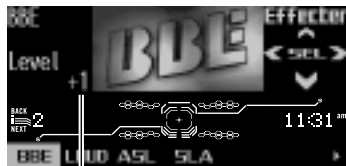
AUDIO ボタン、NEXT ボタン、BBE ボタンの順に押す

2 BBEをONにする

BBE ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。

3 BBEのレベルを調節する

▲または▼ボタンを押す
▲：レベルを大きくするとき
▼：レベルを小さくするとき



レベルは - 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。

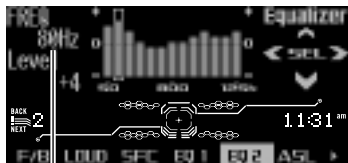
メモ

この製品はBBEサウンド・インコーポレーテッドからの実施権に基づき製造されています。この製品は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。

3 各周波数ごとのレベルを調節する

周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す



選んだ周波数が表示されます。

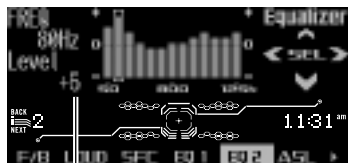
選べる周波数 (Hz)

50、80、125、200、315、500、800、1.25k、2k、3.15k、5k、8k、12.5k

レベルを調節する

▲または▼ボタンを押す

▲：強めるとき
▼：弱めるとき



- 6 ~ + 6 の範囲で調節できます。

調節したイコライザーカーブは、そのまま保存されます。

4 イコライザー 13 バンド調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

音の調節

17

小音量時の音に
メリハリをつける

ラウドネス

小さな音量で聞いているときの、低・高音の不足感を補正して、メリハリのある音にすることができます。

1 ラウドネスモードにする

NEW

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、LOUD ボタンの順に押す

STO

AUDIO ボタン、LOUD ボタンの順に押す

2 ラウドネスをONにする

LOUD ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



音の調節

18

イメージに合った演

SFCで実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。また、BBEではレベルの調節をすることができます。

SFCについて

SFCとはSound Field Control (サウンドフィールドコントロール)の略です。SFCは、車室内にリアルな音場を再現することができます。STUDIOやDOMEなど4つの音場空間を再現するプログラムが用意されています。

BBEについて

BBEは、音楽再生時に発生する高調波成分の遅延、振幅の狂いを位相補正と高域ブーストを組み合わせで修復することで、極めて原音に近い再生音にすることができます。このため、鮮明度が高く、ライブ演奏に近い自然な臨場感を再現することができます。

1 SFCモードにする

AUDIO ボタン、SFC ボタンの順に押す

2 音場プログラムを選ぶ

選みたい音場プログラムのボタンを押す
同じボタンを押すごとにON/OFFします。

ボタン	音場プログラム
STUDIO	STUDIO
CLUB	CLUB
HALL	CONCERT HALL
DOME	DOME
BBE	BBE



選んだ音場プログラムが表示されます。

奏会場を再現する **STD**

SFC / BBE

BBE を選ぶ場合

1 BBE を選ぶ

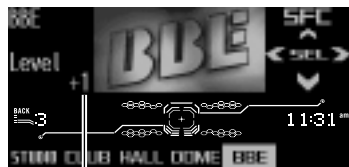
AUDIO ボタン、SFC ボタン、BBE ボタンの順に押す

2 BBE のレベルを調節する

▲または▼ボタンを押す

▲：レベルを大きくするとき

▼：レベルを小さくするとき



レベルは - 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。

メモ

この製品はBBEサウンド・インコーポレーテッドからの実施権に基づき製造されています。この製品は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc.の登録商標です。

音の調節 **19** 騒音に合わせて音量を変える

ASL

騒音に合わせて、自動的に音量が変わるようにすることができます。

ASLについて

ASLとは、Automatic Sound Levelizer (オートマチック サウンド レベライザー) の略です。

ASLは、走行速度や道路状況によって変化する車内の騒音を検出して、騒音が大きくなると自動的に音量を大きくする機能です。

1 ASL モードにする

MEMO

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、ASL ボタンの順に押す

STD

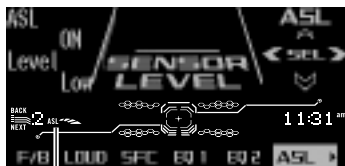
AUDIO ボタン、ASL ボタンの順に押す

2 ASL の感度を選ぶ

ASL ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

ASL OFF → Low → Mid-Low → Mid → Mid-High → High → ASL OFF に戻る



ASLがONのときに表示され、ASLの効果量をバーで表示します。

メモ

音量が十分にあるときは、騒音が大きくても、音量の上げ幅は小さくなります。

この機能が働いて音量が上がらすぎたとき、音が歪むことがあります。そのときはVOLUMEを左に回して音量を下げてください。


各ソースの音量の違いをそろえる

SLA

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量の違いをそろえることができます。


1 FMを受信し、FMの音量を確かめる

SOURCE セレクターを押す

( ここだけで⑥ 26 ページ)

2 調節したいソースに切り換える

SOURCE セレクターを押す

( ここだけで① 18 ページ)

3 SLA モードにする

WWW

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、SLA ボタンの順に押す

SLA

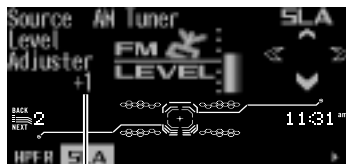
AUDIO ボタン、NEXT ボタンを 2 回、SLA ボタンの順に押す

4 レベルを調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき




- 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。

メモ

SLAとはSource Level Adjuster(ソースレベルアジャスター)の略です。

FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモードに切り換えることはできません。

AM、テレビ、CD、MD、External(エクスターナルユニット)、AUX(外部機器)のそれぞれの音量差を調節することができます。なお、内蔵CDとマルチCD、内蔵MDとマルチMD、External 1とExternal 2、およびAMと交通情報( 便利な機能② 91 ページ)は同じ設定になります。

オートタイムアライメント&イコライジング を行う前に **STD**

Auto TA&EQ

Auto TA&EQ (オートタイムアライメント&イコライジング) を行う前に必ずお読みください。



警告

走行中に Auto TA&EQ を行わない



禁止

自動車が走行中に Auto TA&EQ を行わないでください。Auto TA&EQ 機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

スピーカー破損防止について

次の状態で Auto TA&EQ を行うと、スピーカーが破損する恐れがあります。Auto TA&EQ を行う前に、よく確認してください。
 スピーカーの接続を誤っている場合
 (例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)
 スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している場合

Auto TA&EQ 機能について

車室内空間は、その広さや複雑な形状、材質により、ホームオーディオに比べ、一般的に音響特性が大きく乱れています。このような車室内の音響特性を補正するためにイコライザーを使用しますが、測定器などを使用せずに設定するのはかなり困難な作業になります。

本機の Auto TA&EQ 機能は、車室内の音響特性を自動的に測定し、そのデータに基づいて、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな特性に近づくように自動的に補正します。(イコライザーカーブを呼び出したときは、Auto TA&EQ により乱れの少ない滑らかな特性になった上でイコライザーカーブが設定されますので、より効果的になります。) また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を自動的に測定し、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調整します。

Auto TA&EQ を行う前にお読みください

Auto TA&EQ は、なるべく静かな所で、車のエンジンおよびエアコンやヒーターを止めて行ってください。また、携帯電話や自動車電話などを車載している場合は、電話を車外へ持ち出すか電源を切ってから Auto TA&EQ を行ってください。計測音以外の音(車周辺の騒音、エンジン音、電話の着信音など)によって、車室内の音響特性が正しく測定できないことがあります。

Auto TA&EQ は、必ず付属のマイクを使用して行ってください。付属のマイク以外のマイクでは、Auto TA&EQ が実行できなかったり、車室内の音響特性が正しく測定できません。

フロントスピーカーが接続されていない場合は、Auto TA&EQ が実行できません。

入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプの入力レベルコントロールを下げていますと、Auto TA&EQ が実行できない場合があります。パワーアンプの入力レベルコントロールは推奨位置に合わせてください。

LPF 付きのパワーアンプを接続している場合、LPF を ON にしていると正しく測定できません。パワーアンプの LPF は OFF にして測定してください。

Auto TA&EQ を行うと、各モードの内容が次のように変更されます。

- * 前後左右の音量バランス調節(フェーダー/バランス)の設定がリセットされ、初期設定に戻ります。
- * イコライザーカーブは、フラット (FLAT) になります。
- * リスニングポジションセレクターは、Front Right に設定されます。(ただし、Front Left に設定していたときだけは、Front Left のままになります。)
- * サブウーファーを接続している場合、サブウーファー出力とリアハイパスフィルターの設定が調節されます。(サブウーファー出力を OFF にしていても、自動的に ON になり調節されます。)

Auto TA&EQ の調節内容について

一度 Auto TA&EQ を行ったあとに、再度 Auto TA&EQ を行うと、前の Auto TA&EQ の調節内容は消去されます。

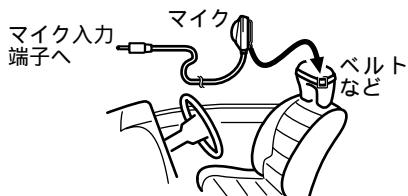
車室内の音響特性を自動的に計測して、車室内の音響特性を最適に自動補正することができます。

1 車の環境を整える

静かな所に車を停車させる
ドア、窓、サンルーフなどを閉める
車のエンジンを停止させる

2 マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に付属のマイクを前向きに固定する



ご注意

マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。

3 車のエンジンスイッチをACCまたはONにする

ご注意

車のエアコンやヒーターがONになっている場合は、OFFにしてください。エアコンやヒーターのファンの騒音によってAuto TA&EQが実行できないことがあります。

4 本機の電源を入れる

SOURCE セレクターを回す

5 乗車位置を決定する

リスニングポジションセレクターモードにして、乗車位置をマイクをセットした座席に設定する。(音の調節④ 73ページ)

メモ

乗車位置をFront Seat RightまたはFront Seat Left以外に設定したときは、Auto TA&EQを始めると、強制的にFront Seat Rightに再設定されます。

6 本機の電源を切る

SOURCE セレクターを回す

本機の電源が切れるまで、SOURCEセレクターを回します。

7 Auto TA&EQ 設定モードにする

→ 2 ボタンを2秒以上押す



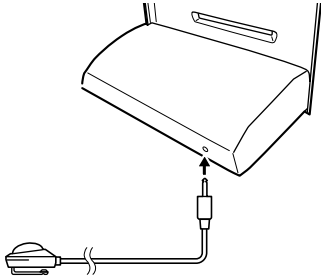
フロントパネルが自動的に開きます。

メモ

→ 2 ボタンの位置が分からない場合は(音の調節④ 70ページ)

8 マイクを本機に接続する

付属のマイクをマイク入力端子に接続する



メモ

フロントパネルがシフトレバーに当たったり、シフトレバーがマイクを接続する妨げになる場合は、EXIT ボタンを押して、Auto TA&EQ モードをいったん解除します。

ANGLE ボタンを押して、マイクを接続できる角度に調節した後に、マイクをマイク入力端子に接続します。そして、もう一度 Auto TA&EQ モードにしてから、手順9に進んでください。

9 Auto TA&EQ を始める

START ボタンを押す

STOP ボタンを押すと中止します。

EXIT ボタンを押すと途中解除して、電源 OFF になります。



計測音 (ノイズ) が各スピーカーから出力され、Auto TA&EQ が始まります。

11 Auto TA&EQ が自動的に終了する



Auto TA&EQ 操作が終わったらセットしたマイクを取り外し、BAND ボタンを押して電源を切り、ANGLE (CLOSE) ボタンを押してフロントパネルを元の位置に戻してください。



注意

フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。フロントパネルを開けたまま、走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして、思わぬケガをする恐れがあります。

メモ

Auto TA&EQ を途中でやめたいときは、EXTI ボタンまたは BAND ボタンを押してください。強制的に解除して、電源 OFF になります。

マイクをセットする位置により、Auto TA&EQ の調節内容が変わります。

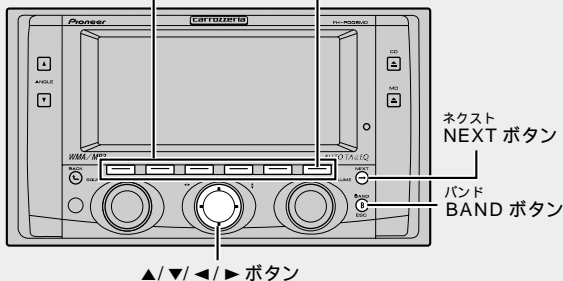
お好みにより、助手席にセットすることもできます。

マイクはグローブボックスなどに、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になる恐れがあります。

10 車外に出る

10 秒のカウントダウンが始まるので、10 秒以内に車外に出て、ドアを閉める

セレクションキー 6 のボタン



便利な機能

1

瞬時に音量を小さくする

アッテネーター

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

1

瞬時に音量を小さくする

ATT ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



アッテネーターがONのときに反転表示します。

アッテネーターがONのときは、音量が約1/10になります。

AM 1,620 kHzまたは1,629 kHzの交通情報を、簡単に受信することができます。

1 “TI” を表示する

NEXT ボタンを押す

“TI” が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。



2 交通情報を受信する

TI ボタンを押す

交通情報を受信します。

3 放送に合わせて周波数を切り換える

聞きたい周波数のボタンを押す

ボタン	周波数
1620	1620 kHz
1629	1629 kHz



受信周波数

4 交通情報の受信をやめる

TI ボタンを押す

交通情報を受信する前の状態に戻ります。

メモ

この機能は、どのソースからでも操作できます。交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定することができます。

時計・カレンダーを表示・調節する

本機の電源がOFFのときに時計を表示させたり、時計の調節をすることができます。

電源OFF時に時計を表示する

オフクロック表示

電源をOFFにしてから、6のボタンを押してデモモードをOFFにしたときに、時計・カレンダーを表示することができます。

1 “CLK” を表示する

NEXT ボタンを押す

“CLK” が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。



2 時計・カレンダーモードにする

CLK ボタンを押す

3 オフクロックモードにする

OFF CLK ボタンを押す

4 オフクロックをONにする

OFF CLK ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



5 時計・カレンダーモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

時計・カレンダーモードは、約60秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

日付を設定する

1 時計・カレンダーモードにする

2 カレンダー調整モードにする

DATE ボタンを押す



3 日付の設定をする

年または月、日を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

押すごとに年または月、日が切り換わります。

日付を合わせる

▲または▼ ボタンを押す

▲：日付を進めるとき

▼：日付を戻すとき

メモ

オフクロックONの状態では電源をOFFにしてから、フィーチャーデモをOFFにすると、カレンダーを表示することができます。

年は2003年から2052年までの範囲で設定できます。

時計を設定する

1 時計・カレンダーモードにする

2 時計調整モードにする

TIME ボタンを押す



3 時計の設定をする

時または分を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

押すごとに時または分が切り換わります。

時刻を合わせる

▲または▼ ボタンを押す

▲：時刻を進めるとき

▼：時刻を戻すとき

分を調節すると、0秒からカウントが始まります。

時刻を時報に合わせる

1 時計・カレンダーモードにする

2 時計調整モードにする

TIME ボタンを押す

3 時刻を時報に合わせる

JUST ボタンを押す

「分」が「00」になります。

例) 10:00 ~ 10:29 → 10:00
10:30 ~ 10:59 → 11:00

タイムシグナルを表示する

1 時計・カレンダーモードにする

2 時報設定モードにする

T.SGNL ボタンを押す

3 時報(タイムシグナル)をONにする

T.SGNL ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

タイムシグナル表示は、音とアニメーションによる時報機能です。(電源ON時の機能です。)

便利な機能

4

カスタムメニューの切り換えかた

表示画面の選択やディマーなどの設定をするときはカスタムメニューを切り換えて操作します。

1 “C. MENU” を表示する

NEXT ボタンを押す

“C. MENU” が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。

TI 00000 CLK 00000

2 カスタムメニューにする

C. MENU ボタンを押す

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

TRIP 00000 00000 FLASH PTRN FONT

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 カスタムメニューを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

カスタムメニューは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

“PTRN” は、表示画面の“FORM 2”専用の機能です。“FORM 2”以外を選択しているときは表示されません。

“FONT” は、表示画面の“FORM 3”専用の機能です。“FORM 3”以外を選択しているときは表示されません。

便利な機能

5

表示画面を選ぶ

表示画面選択

本機の基本画面には、FORM 1、FORM 2、FORM 3の3つの表示方法があり、お好みに合わせて選ぶことができます。

1 表示画面選択モードにする

C. MENU ボタン、D. FORM ボタンの順に押す

2 表示を選ぶ

お好みの表示のボタンを押す

ボタン	表示
FORM1	FORM 1
FORM2	FORM 2
FORM3	FORM 3

ディスプレイの明るさを調節する

ブライト

ディスプレイの明るさを調節することができます。

1 輝度調整モードにする

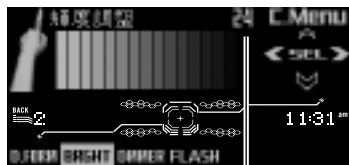
C. MENU ボタン、BRGHT ボタンの順に押す

2 明るさを調節する

◀または▶ ボタンを押す

▶ : 明るくしたいとき

◀ : 暗くしたいとき



0 ~ 28 の範囲で調節できます。

夜間のディスプレイの明るさを切り換える

ディマー設定

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトをONにすると、ディスプレイが暗くなります。

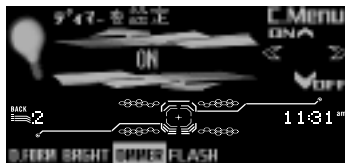
1 ディマー設定モードにする

C. MENU ボタン、DIMMER ボタンの順に押す

2 ディマーの設定をONにする

DIMMER ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

車のライトをONにしてディマーが働いているときでも、輝度調整モード (便利な機能⑥) でディスプレイの明るさを“0”に調節しているときは、ディスプレイの明るさを変えることはできません。

便利な機能

8

ディスプレイ演出の種類を選ぶ

サーキットフラッシュ選択

ディスプレイ演出の種類を選ぶことができます。

1 サーマイトフラッシュ設定モードにする

C. MENU ボタン、FLASH ボタンの順に押す

2 演出の種類を選ぶ

TYPE1 ~ TYPE4、ALL の中から、お好みの種類のボタンを押す



メモ

“ALL” を選んだときは、“TYPE1” ~ “TYPE4” を順番に表示します。

“OFF” を選ぶと、ディスプレイ演出をOFFにすることができます。

便利な機能

9

背景のパターンを選ぶ

壁紙選択

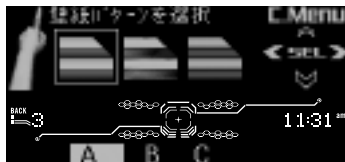
表示画面に“FORM 2”を選んでいる場合、背景のパターンを選ぶことができます。

1 壁紙選択モードにする

C. MENU ボタン、PTRN ボタンの順に押す

2 壁紙を選ぶ

A、B、C ボタンの中からお好みの壁紙のボタンを押す



フォントの種類 を選ぶ

フォント選択

表示画面に“FORM 3”を選んでいる場合、
表示フォント(文字)を選ぶことができます。

1 文字フォント設定モード にする

C. MENU ボタン、FONT ボタンの順
に押す

2 フォントを選ぶ

A、B、C ボタンの中から好みの
フォントのボタンを押す



エンタテインメントを表示させる

音楽などを聞いているときに、ディスプレイの表示をエンタテインメント表示に切り換えることで、いろいろな表示を楽しむことができます。

エンタテインメントメニューの切り換えかた

1 エンタテインメントメニューにする

ENT ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

MOVIE S/A A/SL BG OFF

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

3 エンタテインメントメニューを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

エンタテインメントメニューは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

“BG”は、表示画面の“FORM 1”専用の機能です。“FORM 2”を選択しているときは表示されません。また、“FORM 3”を選択しているときは“BG”が“BGV”に変わります。

ムービースクリーンを表示する

1 ムービースクリーン選択モードにする

ENT ボタン、MOVIE ボタンの順に押す

2 ムービースクリーンを選ぶ

お好みのムービーのボタンを押す

押したボタンのムービースクリーンが表示されます。

ボタン	表示
MOVIE1	ノーチラス
MOVIE2	ジェネシス
MOVIE3	ミステイ
ALL	MOVIE1 ~ 3を順番に表示

レベルインジケータを表示する

1 レベルインジケータ選択モードにする

ENT ボタン、S/A ボタンの順に押す

2 レベルインジケータを選ぶ

S/A 1 ~ S/A 3の中から、お好みのレベルインジケータのボタンを押す

押したボタンのレベルインジケータが表示されます。

ASL レベルインジケータを表示する

1 ASL レベルインジケータを表示する

ENT ボタン、ASL ボタンの順に押す

メモ

ASL については (音 音の調節 85 ページ)

バックグラウンドビジュアルを表示する

1 バックグラウンドビジュアル
選択モードにする

ENT ボタン、BG ボタン、BGV ボタンの順に押す

2 バックグラウンドビジュアル
を選ぶ

BGV 1 ~ BGV 5 の中から、お好みのバックグラウンドビジュアルのボタンを押す

押したボタンのバックグラウンドビジュアルが表示されます。

メモ

“FORM 3” を選択しているときは、ENT ボタン、BGV ボタンの順に押すことにより、バックグラウンドビジュアルを表示することができます。

バックグラウンドピクチャーを表示する

1 バックグラウンドピクチャー
選択モードにする

ENT ボタン、BG ボタン、BGP ボタンの順に押す

2 “BGP 1” ~ “BGP 6” と “BGP 7”
~ “BGP 12” を切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに “BGP 1” ~ “BGP 6” と “BGP 7” ~ “BGP 12” が切り換わります。

BGP 1 BGP 2 BGP 3 BGP 4 BGP 5 BGP 6

3 バックグラウンドピクチャー
を選ぶ

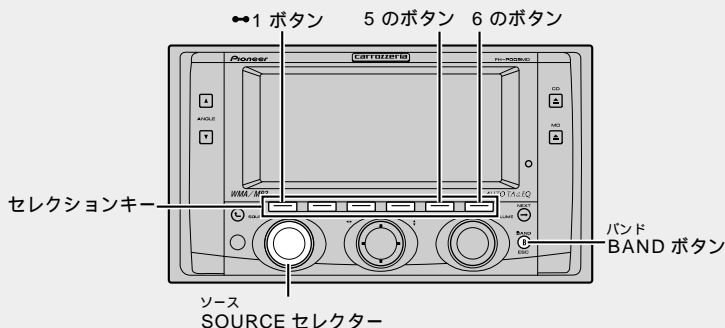
BGP 1 ~ BGP 12 の中から、お好みのバックグラウンドピクチャーのボタンを押す

押したボタンのバックグラウンドピクチャーが表示されます。

エンタテインメント表示を解除する

1 エンタテインメント表示を
解除する

ENT ボタン、OFF ボタンの順に押す
現在表示しているエンタテインメント表示を OFF にします。



便利な機能
12

初期設定モードの切り換えかた

外部機器やデモモードの設定をするときは、初期設定モードを切り換えて操作します。

1 電源を OFF にする

SOURCE セレクターを回す
(ここだけで① 18 ページ)

2 初期設定モードにする

電源が OFF のときに、↔ 1 ボタンを
2 秒以上押す

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

REV F.DEMO AUX D.ATT MUTE.S

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す
初期設定モードが解除され、電源が OFF になります。

リモコンの場合

電源が OFF のときに、FUNCTION ボタンを 2 秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押す

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

REV → F.DEMO → AUX → D.ATT → MUTE.S → REV に戻る

リバースモードをON/OFFする

リバースモードのON/OFFをすることができます。

1 画面反転機能設定モードにする

電源がOFFのときに、**⇄** 1 ボタンを2秒以上押す

2 画面反転機能設定をONにする

REV ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

メモ

リバースモードは、本機がOFFのときに、5ボタンを押すことでもON/OFFすることができます。

フィーチャーデモをON/OFFする

フィーチャーデモのON/OFFをすることができます。

1 デモンストレーション設定モードにする

電源がOFFのときに、**⇄** 1 ボタンを2秒以上押してから、F.DEMO ボタンを押す

2 デモンストレーション設定をONにする

F.DEMO ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

メモ

フィーチャーデモは、本機がOFFのときに、6ボタンを押すことでもON/OFFすることができます。

便利な機能

15

外部機器の音声を 聞く

AUX (外部機器) の設定

本機にDATやVTRなどの外部機器を接続すると、その音声を聞くことができます。

外部機器との接続について

別売のRCA/IP-BUSインターコネクター「CD-RB20」または「CD-RB10」を使うと、RCA出力のあるDATやVTRを、外部機器として本機に接続することができます。

詳しくは、RCA/IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

1 AUX (外部機器) モードにする

電源がOFFのときに、**1** ボタンを2秒以上押してから、AUX ボタンを押す

2 AUX (外部機器) の設定をONにする

AUX ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

4 ソースをAUXにする

SOURCE セレクターを回して選ぶ

(※ ここだけで18ページ)

ソースをAUXに切り換えると、外部機器の音声が出力されます。

便利な機能

16

外部機器の名称を 入力する

接続した外部機器の名称を入力することができます。

1 ソースをAUXにする

SOURCE セレクターを回して選ぶ

(※ ここだけで18ページ)



2 外部機器の名称入力モードにする

FUNC ボタン、TTLin ボタンの順に押す



3 外部機器の名称を入力し、記憶させる (※ マルチCD 58ページ)

CDタイトル入力の手順3～6を参照し、同様の操作で外部機器の名称を記憶させてください。

例) “DAT”を入力した場合



“AUX”の表示のかわりに、入力した名称が表示されます。

メモ

TTLin ボタンを押さなくても、文字を入力することはできますが、アルファベットの小文字やカナ文字などを入力することはできません。

音の歪みを補正する

デジタルアッテネーター

イコライザーカーブの調節 (E音の調節 82 ページ) による音の歪みをなくすることができます。

デジタルアッテネーターについて

イコライザーカーブの調節 (E音の調節 82 ページ) でレベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの調節で音が歪んだように感じたときは、デジタルアッテネーターの設定を LOW に切り換えてください。

1 デジタルアッテネーター設定モードにする

電源が OFF のときに、**⇄** 1 ボタンを 2 秒以上押してから、D.ATT ボタンを押す

2 設定を選ぶ

選びたい設定のボタンを押す

ボタン	設定
LOW	Low
HIGH	High



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源が OFF になります。

ミュート / アッテネートネットを切り換える

ミュート / アッテネート設定

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声をミュートするか、アッテネートするかを選ぶことができます。

ミュート / アッテネート機能について

ミュート機能のある製品 (パイオニア製ナビゲーションシステム「AVIC-DR2000」など) と本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているあいだだけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

TEL mute : 音量 " 0 "

10 dB ATT : もとの音量の 1/3

20 dB ATT : もとの音量の 1/10

ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的にもとの音量に戻ります。

1 ミュート設定モードにする

電源が OFF のときに、**⇄** 1 ボタンを 2 秒以上押してから、MUTE.S ボタンを押す

2 設定を選ぶ

MUTE.S ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



TEL mute → 10 dB ATT → 20 dB ATT → TEL mute に戻る

3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源が OFF になります。

使用できるCDについて

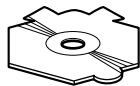
下記マークの付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。



本機は音楽CD規格に準拠して設計されています。コピーコントロールCDなどのCD規格外ディスクの動作保証及び性能保証は致しかねます。

ひび、キズ、そのあるCDは使用しないでください。

特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-R/CD-RWディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。

パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。）

直射日光や高温等、車内での保管状況により、CD-R/CD-RWディスクは再生できなくなる場合があります。

CD-R/CD-RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。（音楽データ（CD-DA）再生時）

本機はCD-R/CD-RWディスクのトラックスキップ機能に対応しています。スキップ指定された曲を飛ばして再生します。（音楽データ（CD-DA）再生時）

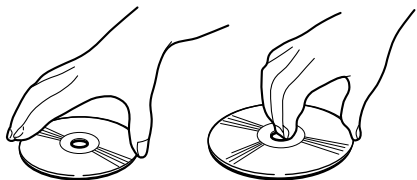
ファイナライズされていないCD-R/CD-RWディスクには対応していません。

CD-RWディスクは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rディスクより時間がかかります。

CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

取り扱い上のご注意

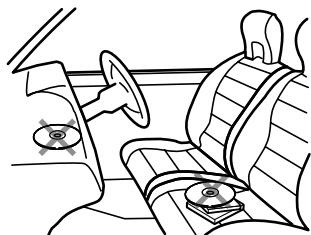
CDは、下図のように、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。



CDにキズを付けないでください。
CDにシールなどを貼り付けしないでください。

保管上のご注意

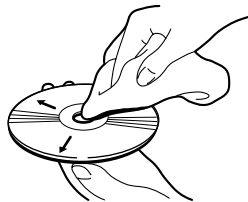
直射日光の当たるところや高温になるところには、CDを保管しないでください。



CDがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。

CD再生の環境について

走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。

寒いとき、ヒーターを入れた直後にCD再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が生じて、正常な再生ができないことがあります。

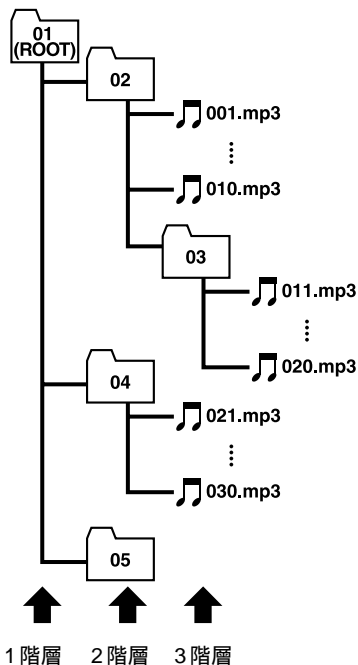
このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。

メモ

製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

フォルダーとWMA およびMP3 ファイルについて

WMA およびMP3 ファイルを収録したCD-R/CD-RW/CD-ROMのイメージは下図のようになります。



本機はWMA およびMP3 ファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。ディスクは、ISO9660のレベル1、レベル2、および拡張フォーマット(Joliet、Romeo)に準拠して記録されたディスクが再生可能です。(☞ その他⑦ 114ページ)

本機はマルチセッション (☞ その他⑦ 114ページ) 方式で記録したディスクの再生に対応しています。

バケットライト (☞ その他⑦ 114ページ) には対応していません。

m3u (☞ その他⑦ 114ページ) のプレイリストには対応していません。

MP3i (MP3 interactive) フォーマット、およびMP3 PRO フォーマットには対応していません。

ファイル名の最大表示文字数は、拡張子(.mp3、.wma)を含めて32文字までです。また、フォルダー名の最大表示文字数は32文字までです。

拡張フォーマット (Romeo、Joliet) (☞ その他⑦ 114ページ) に準拠して記録されたファイルの場合、先頭から32文字までの表示に対応しています。

再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を設定できるものもあります。

メモ

フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てすることはできません。

CD-R、CD-RW、CD-EXTRA、MIXED-MODE CDディスクにWMA およびMP3 ファイルと、音楽データ (CD-DA) が混在しているときは、WMA およびMP3 ファイルと、音楽データ (CD-DA) を切り換えることができます (☞ ここだけで④ 23ページ)。WMA およびMP3 ファイルと、音楽データ (CD-DA) を切り換えた場合、再生は一番先頭の曲から始まります。

WMA およびMP3 ファイルを含まないフォルダーは認識しません。(フォルダー番号の表示をせず、スキップします。)

8階層までのWMA およびMP3 ファイルの再生に対応していますが、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を2つ以下にすることをおすすめします。

ディスクに含まれるフォルダーの合計が253個まで再生可能です。

WMA とは？

「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver.7、7.1 または Windows Media Player for Windows XP を使用してエンコードすることができます。
(☞ その他⑦ 115 ページ)

ご注意

WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。

再生できる WMA ファイルについて

ご注意

WMA ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wma) を付けてください。本機は、拡張子 (.wma) が付いているファイルを WMA ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WMA ファイル以外には拡張子 (.wma) を付けないでください。

再生可能な WMA ファイルのサンプリング周波数は 32/44.1/48 kHz です。

一般的に WMA ファイルは、ビットレート (☞ その他⑦ 114 ページ) が高いほど音質は良くなります。本機は、48kbps ~ 192kbps の WMA ファイルの再生に対応していますが、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ高いビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。

MP3 とは？

MPEG Audio Layer 3 の略称で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
(☞ その他⑦ 115 ページ)

再生できる MP3 ファイルについて

ご注意

MP3 ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.mp3) を付けてください。本機は、拡張子 (.mp3) が付いているファイルを MP3 ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3 ファイル以外には拡張子 (.mp3) を付けないでください。

ID3 Tag (☞ その他⑦ 114 ページ) の Ver1.0 および Ver1.1 の album (Disc Title として表示)、track (Track Title として表示)、artist (Track Artist として表示) の表示に対応しています。

32/44.1/48 kHz の MP3 ファイルを再生している場合のみエンファシスに対応しています。(なお、再生可能なサンプリング周波数は 16/22.05/24/32/44.1/48 kHz です。)

一般的に MP3 ファイルは、ビットレート (☞ その他⑦ 114 ページ) が高いほど音質は良くなります。本機は、8kbps ~ 320kbps の MP3 ファイルの再生に対応していますが、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、128kbps 以上のビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。

使用できる MD について

下記マークの付いている MD (ミニディスク) をご使用ください。



音楽用以外の MD は使用しないでください。故障の原因になります。

取り扱い上のご注意

MDのシャッターを手であけないでください。無理にあげるとこわれることがあります。

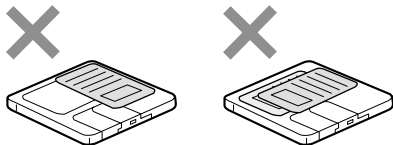
カートリッジ

シャッター

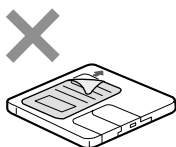


ラベルについて

MDに付属のラベルは、必ず指定の位置に貼ってください。指定以外の位置に貼ったり、2枚重ねて貼ったりすると、MDが取り出せなくなることがあります。

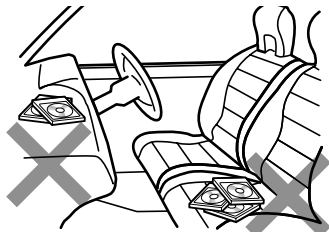


ラベルがめくれたり、浮いたりした MD は使用しないでください。ラベルが引っかかり、MDが取り出せなくなります。このような MD は新しいラベルに貼り換えてからお使いください。



保管上のご注意

MDは、直射日光の当たるところや高温になるところには、保管しないでください。



お手入れについて

MDのカートリッジ表面が汚れたときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。

MDにベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



MD用クリーニングディスクを使用するときは、クリーニングディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。クリーニングディスクによっては製品の故障の原因になる場合があります。

寒いときの結露について

寒いとき、ヒーターを入れた直後にMDの再生を始めると、本機内部の光学系レンズやMDに露が付いて、正常な再生ができないことがあります。

このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。MDのカートリッジ表面に付いた露は柔らかい布で拭いてください。

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

故障かな?と思ったら

故障かな?と

思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

チェックしても

直らないときは

本機をリセットしてください。(☞ はじめに④ 12 ページ)

それでも

直らないときは

保証書とアフターサービス(☞ その他④ 109 ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。(☞ 取付説明書)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものとの交換してください。(☞ 取付説明書)
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を上げてください。 (☞ ここだけで②~⑥ 20 ~ 29 ページ)
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。 (☞ 便利な機能① 90 ページ)
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (☞ 音の調節⑤ 74 ページ)
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (☞ 音の調節⑤ 74 ページ)
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (☞ 音の調節⑤ 74 ページ)
ディスプレイが反転表示する。	リバースモードがONになっている。	リバースモードを解除してください。 (☞ 便利な機能⑬ 101 ページ)

ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。 (☞ ここだけで⑤ 27 ページ)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。 (☞ ここだけで⑤ 27 ページ)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音も少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。 (☞ ここだけで⑤ 27 ページ)

CD、WMA/MP3

症状	原因	処置
CD再生中、大きな雑音が出る。	CDに大きなキズやそりがある。	他のCDに交換してください。良くなれば、CDの不良です。
CDの再生が途中で止まる。	CDが極端に汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。 (☞ その他① 105ページ)
	CDにくもりや水滴がついている。	CDにくもりや水滴をふき取ってください。 (☞ その他① 105ページ)
	CDの裏表を逆にしてセットしている。	CDのタイトル面を上にしてセットしてください。(☞ ここだけで② 20ページ)

MD

症状	原因	処置
再生中、大きな雑音が出る。	MDが極端に汚れている。	MDを交換してください。
MDの再生が途中で止まる。	MDにくもりや水滴がついている。	
	録音されていないMDを挿入した。	
	MDが正しい方向に挿入されていない。	MDを取り出し、正しい方向に挿入してください。(☞ ここだけで④ 24ページ)

こんなメッセージが表示されたら

CD、WMA/MP3のエラー表示

メッセージ(エラー番号)	原因	処置
「ERROR-11」「ERROR-12」 「ERROR-17」「ERROR-30」	CDが汚れているとき。	CDの汚れをふき取ってください。 (☞ その他● 105ページ)
	CDにキズやひびがあるとき。	CDを交換してください。
「ERROR-12」「ERROR-17」	CD-R/CD-RWを録音しないまま使用しているとき。	CD-R/CD-RWは録音してからお使いください。
「ERROR-22」「ERROR-23」	再生できないフォーマットのCD-ROMを挿入したとき。	CDを交換してください。
「ERROR-10」「ERROR-11」 「ERROR-12」「ERROR-17」 「ERROR-30」「ERROR-50」 「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、CD再生を一度やめてから、もう一度CD再生にしてください。
「ERROR-44」	すべての曲がトラックスキップ設定されているとき。	CDを交換してください。
「No audio」	何も録音されていないCD-ROMを挿入したとき。	WMA/MP3ファイルの記録されているCD-ROMと交換してください。

オートイコライジングのエラー表示

メッセージ	原因	処置
「マイクを確認ください」	マイクが接続されていない。	付属のマイクをきちんと差し込んでください。 (☞ 音の調節② 89ページ)
「FLスピーカーを確認ください」 「FRスピーカーを確認ください」 「Fスピーカーを確認ください」 「サブウーファーを確認ください」 「RLスピーカーを確認ください」 「RRスピーカーを確認ください」	スピーカーの計測音がマイクで拾えない。	ソースを切り換えて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください。(☞ 取付説明書)
「騒音が大きすぎます」	周囲の騒音レベルが高すぎる。	付属のマイクを正しくセットしてください。 なるべく静かな所に車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。
「Auto TA&EQできません」	3-wayネットワークモード時にオートイコライジングを実行した。	なるべく静かな所に車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。 付属のマイクを正しくセットしてください。 3-wayネットワークモード時は、オートイコライジングをすることはできません。

メモ

マルチCD再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

MDのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR」	MDが何らかの原因で再生しないとき。	他のMDと交換してください。 リセットボタンを押してください。 (☞ はじめに④ 12 ページ)
「ERROR-01」「ERROR-11」 「ERROR-12」「ERROR-17」 「ERROR-30」「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、MD再生を一度やめてから、もう一度MD再生にしてください。
「ERROR-11」「ERROR-12」 「ERROR-17」「ERROR-30」	MDが汚れているとき。 MDにキズやひびがあるとき。	他のMDと交換してください。
「ERROR-20」「ERROR-21」	振動などが原因で曲の情報を読み取れなかったとき。 MDに異常 (損傷している、TOCが入っていないなど) があるとき。	MDを取り出し、もう一度入れ直してください。それでも同じメッセージが表示される場合は、他のMDと交換してください。
「ERROR-22」「ERROR-24」	MDに異常 (損傷している、TOCが入っていないなど) があるとき。	他のMDと交換してください。
「ERROR-23」	音楽以外の情報が記録されたMDを挿入したとき。	音楽が録音されたMDに交換してください。
「ERROR-A1」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	MD再生を一度やめて、リセットボタンを押す (☞ はじめに④ 12 ページ)、もう一度MD再生にしてください。
「Blank MD」	何も録音されていないMDを挿入したとき。	他のMDと交換してください。
「TEMP」	本機の内部温度に異常があるとき。	本機が正常に動作する温度になるまでお待ちください。

TOCについて

TOC (Table Of Contents) とは、CDやMD、DATなどに収録されている曲数、演奏時間、タイトルなどの音声信号以外の情報のことです。

メモ

マルチMD再生中に、上記以外エラーメッセージが表示されたときは、マルチMDの取扱説明書をご覧ください。

バケットライト

フロッピーやハードディスクと同じように、必要なファイルを必要な時点で、CD-Rなどに書き込む方式の総称です。

ビットレート

1秒当たりの情報量を表し、単位はbps (bit per second) です。この数字が大きいほど、音楽を再現するために多くの情報を持つことになるため、同じ符号化方式 (MP3など) の比較では、一般的に数字が大きい方が良い音となります。(MP3とATRAC3のように、異なる符号化方式の場合、単純な比較はできません。)

マルチセッション

マルチセッションは、データの追加ができる記録方式です。CD-ROMやCD-R、CD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

ID3 Tag

曲の関連情報をMP3ファイルの中に埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報は、曲名、アーティスト名、アルバム名、ジャンル、製作年、コメントなどがあります。この内容はID3 Tag編集機能のあるソフトを利用して自由に編集ができます。通常は文字数などに制限がありますが、曲の再生時に情報を見ることができるようになっています。

ISO9660 フォーマット

CD-ROMのファイルおよびフォルダーに関する論理フォーマットの国際基準です。ISO9660フォーマットには、次のようなレベルに関する規制があります。

レベル1:

ファイル名は、8.3形式 (名前は半角英文大文字と半角数字、“_”で8文字以下、拡張子は3文字)

レベル2:

ファイル名は、最大31文字 (区切り文字、“.”と拡張子を含む) で、各フォルダーの階層は8つ以下

拡張フォーマット

Joliet:

ファイル名は、最大で64文字

Romeo:

ファイル名は、最大で128文字

m3u

プレイリストファイルの拡張子 (.m3u) で、「WINAMP」というソフトで作成したプレイリストに付きます。

MP3 (エムピースリー)

「MPEG Audio Layer3」の略で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。MP3は、音声データを元のデータの約1/10のサイズに圧縮することができます。

VBR (バイビーアール)

「Variable Bit Rate (可変ビットレート)」の略です。一般的にはCBR (固定ビットレート) が多く使われていますが、音声圧縮では圧縮状況に合わせてビットレートを可変することで、音質を優先した圧縮が可能となります。

WMA (ダブルユーエムエー)

「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver.7、7.1またはWindows Media Player for Windows XPを使用してエンコードすることができます。Microsoft、Windows Media、Windowsのロゴは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

オーディオ/DSP部

最大出力 : 50 W × 4
 定格出力 : 22 W × 4
 (50 ~ 15,000 Hz、5 % THD)

負荷
 インピーダンス : 4
 (4 ~ 8 使用可能)

プリアウト
 最大出力レベル : 1.8 V
 出力
 インピーダンス : 1 k

ラウドネス
 コントラ : 10 dB (100 Hz)
 6.5 dB (10 kHz)
 (ボリューム : - 30 dB)

イコライザー
 (13バンド
 グラフィック
 イコライザー)周波数 : 50/80/125/200/
 315/500/800/1.25k/
 2k/3.15k/5k/8k/
 12.5k Hz

調整幅 : ± 12 dB (2 dB)

オートイコライザー
 (スタンダードモード
 のみ)

(13バンド
 グラフィック) : 周波数 (F + R + SW) :
 50/80/125/200/
 315/500/800/1.25k/
 2k/3.15k/5k/8k/
 12.5k Hz
 調整幅 : - 12 dB ~ +6 dB (2 dB)

ネットワーク
 (スタンダードモード)

ハイパス
 フィルター : 周波数 (F + R) :
 50/63/80/100/125 Hz
 スロープ : - 12 dB/oct.

サブウーファー

出力 : 周波数 : 50/63/80/100/125 Hz
 スロープ : - 18 dB/oct.
 調整幅 : - 24 dB ~ +6 dB (1 dB)
 位相 : NORMAL/REVERSE

オーディオ/DSP部 (つづき)

ネットワーク
 (3ウェイネット
 ワークモード)
 HIGH (HPF) : 周波数 : 1.6/2/2.5/3.15/4/
 5/6.3/8/10/12.5/
 16 kHz
 スロープ : - 6、- 12 dB/oct.
 調整幅 : - 24 dB ~ 0 dB/Mute
 (1 dB)
 位相 : NORMAL/REVERSE

MID (HPF/LPF) : 周波数 (LPF) :
 1.6/2/2.5/3.15/4/
 5/6.3/8/10/12.5/
 16 kHz

周波数 (HPF) :
 31.5/40/50/63/
 80/100/125/160/
 200 Hz

スロープ (LPF) :
 0 (Pass)、- 6、
 - 12 dB/oct.

スロープ (HPF) :
 0 (Pass)、- 6、
 - 12、- 18 dB/oct.

調整幅 : - 24 dB ~ 0 dB/Mute
 (1 dB)

位相 : NORMAL/REVERSE

LOW (LPF) : 周波数 : 31.5/40/50/63/80/
 100/125/160/200 Hz

スロープ : - 6、- 12、
 - 18 dB/oct.
 調整幅 : - 24 dB ~ +6 dB/Mute
 (1 dB)

位相 : NORMAL/REVERSE

AM チューナー部

受信周波数帯域 : 522 ~ 1,629 kHz (9 kHz)
 実用感度 : 18 μV (S/N : 20 dB)
 S / N : 65 dB (IHF-A ネットワーク)

CD プレーヤー部

形式 : コンパクトディスク
オーディオシステム
使用ディスク : コンパクトディスク
信号
フォーマット : サンプリング周波数 : 44.1 kHz
量子化ビット数 : 16ビット直線
周波数特性 : 5 ~ 20,000 Hz (± 1 dB)
S/N : 94 dB (1 kHz)
(IHF-A ネットワーク)
ダイナミック
レンジ : 92 dB (1 kHz)
チャンネル数 : 2 (ステレオ)
MP3
デコーディング
フォーマット : MPEG-1 & 2 Audio Layer-3
WMA
デコーディング
フォーマット : Ver. 7 & 8

MD プレーヤー部

形式 : ミニディスクデジタル
オーディオシステム
使用ディスク : ミニディスク
信号
フォーマット : サンプリング周波数 : 44.1 kHz
量子化ビット数 : 16ビット直線
周波数特性 : 20 ~ 20,000 Hz (± 1 dB)
S/N : 90 dB (1 kHz)
(IHF-A ネットワーク)
ダイナミック
レンジ : 90 dB (1 kHz)
チャンネル数 : 2 (ステレオ)

FM チューナー部

受信周波数帯域 : 76.1 ~ 89.9 MHz
実用感度 : 8 dBf (0.7 μ V/75 、
モノラル、S/N : 30 dB)
S / N 50 dB
感度 : 10 dBf
(0.9 μ V/75 、モノラル)
S / N : 75 dB (IHF-A ネットワーク)
高調波歪率 : 0.3 %
(65 dBf入力、1 kHz、ステレオ)
0.1 %
(65 dBf入力、1 kHz、モノラル)
周波数特性 : 30 ~ 15,000 Hz (± 3 dB)
ステレオ
セパレーション : 45 dB (65 dBf入力、1 kHz)

共通部

使用電源 : DC 14.4 V
(10.8 ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式 : マイナスアース方式
最大消費電流 : 10.0 A
外形寸法
(取付寸法) : 178 (W) × 100 (H) × 160 (D) mm
(ノーズ寸法) : 169 (W) × 94 (H) × 17 (D) mm
質量 : 2.5 kg (コードユニット含まず)

付属品

コードユニット : 1
取付ネジ類 : 1 式
マイク : 1
リモコン : 1
リチウム電池
(CR2025) : 1
取扱説明書 : 1
取付説明書 : 1
安全上のご注意 : 1
保証書 : 1
ご相談窓口・
修理窓口のご案内 : 1

ドルビーラポラトリーズの米国及び外国特許に基づく許諾製品。

メモ

上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

3-way ネットワークモード (NW)

ネットワーク設定

フィルター	L LPF	M HPF	M LPF	H HPF
遮断周波数 (Hz)				
レベル (dB)				
スロープ (dB/oct.)				
位相				

タイムアライメント設定

スピーカーユニット	High Left	High Right	Mid Left	Mid Right	Low Left	Low Right
距離 (cm)						

スタンダードモード (STD)

ネットワーク設定

フィルター	SW1 (SW2)	HPF F	HPF R
遮断周波数 (Hz)			
レベル (dB)		_____	_____
位相		_____	_____

タイムアライメント設定

スピーカーユニット	Front Left	Front Right	Rear Left	Rear Right	Sub.W
距離 (cm)					

イコライザーカーブ設定

Custom2

周波数 (Hz)	50	80	125	200	315	500	800	1.25k	2k	3.15k	5k	8k	12.5k
レベル (dB)													



この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

ご購入後の製品の修理・取り扱いのご相談は、お買い求めの販売店へお問い合わせください

修理のご依頼は、取扱説明書の『故障かな?と思ったら』の項目をご確認のうえ、お買い求めの販売店へご相談ください。取り付け・組み合わせなどのお問い合わせにつきましても、お買い求めの販売店へご相談・ご相談ください。

下記窓口へのお問い合わせ時のご注意

市外局番「0070」で始まるフリーフォンおよび「0120」で始まるフリーダイヤルは、PHS、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。また、一般電話は携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。あらかじめご了承ください。

安全上のご注意

携帯電話などの走行中の使用などの禁止に関する規定が、改正道路交通法（法第71条第5号の5）にて施行されています。自動車または原動機付自転車（原付）からの、携帯電話などによる発信・応答・通話は、安全な場所に止めてからご利用ください。

製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付 月曜～金曜 9:30～17:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休日は除く）

カーオーディオ/カーナビゲーション製品のご相談窓口： **0070-800-8181-11**
03-5496-8016（一般電話）

カタログのご請求窓口： **0070-800-8181-33**
ファックス：**03-3490-5718**

バイオニアホームページでのご案内

商品に関する「よくあるお問い合わせ」FAQのご案内 <http://www.pioneer.co.jp/support/faq/index.html>
カタログ請求とメールサービス登録のご案内 <http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html>

部品のご購入についてのご相談窓口

付属品（リモコン・取扱説明書など）のご購入に関するご相談については、部品受注センターにご相談ください。

部品受注センター（フリーダイヤル）

受付 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話： **0120-5-81095**
0538-43-1161（一般電話）

ファックス： **0120-5-81096**

ご贈答品などの修理についてのご相談窓口

修理のお問い合わせは、取扱説明書の『故障かな?と思ったら』の項目をご確認のうえお問い合わせください。ご転居されたり、ご贈答品などで、お買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、下記の修理受付センターにご相談ください。

修理受付センター（沖縄県を除く全国）（フリーダイヤル）

受付 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話： **0120-5-81028**
03-5496-2023（一般電話）

ファックス： **0120-5-81029**

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付 月曜～金曜 9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話：**098-879-1910**（一般電話）
ファックス：**098-879-1352**

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

©パイオニア株式会社 2003

< KYMZF/03C00000 > < CRA3456-A >